攝津名所圖會

河邊郡六下

ル 4
3651
8

帝國圖書館藏

門ム4
號 3651
巻 8

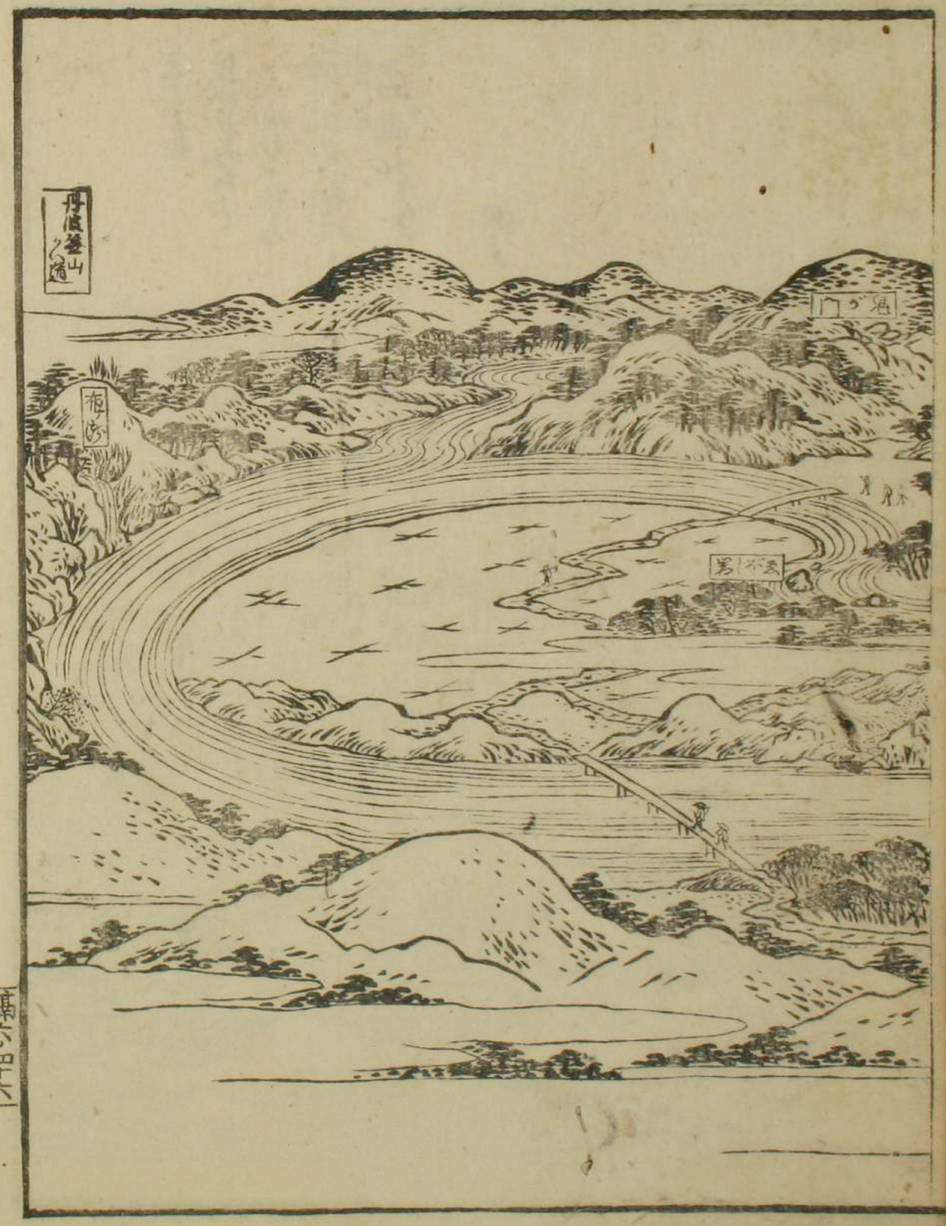
八冊之内

昭和
九月廿三日
購求

屏風巖

走り苑
秋いりみちと
かるるのゝ
屏風の岩九
名画ゝゝ

湖夕



大舟山 豊川村の上方にあり二峻孤立して嶸々たる樹木茂盛す 山麓つゝみ聲響くこと 昔寺あり六舟寺と

大舟寺 月村の中にあり開基は日羅なり本尊大悲の像を安置す初は 蓮原郡 沼原村に遷し 後年十二町古礎十二基今に存せり中比 再び村中に遷し 又本集拾は岡に出

四ヶ寺に法ゆゑ数ゆゑ聲成帆にあつめて 後鳥羽

高蔓布神社 高平谷坂井村にあり延喜式出 今惣社明神と称す此谷中の生土神なり次上梁文曰永正十年就者小豆付家僑補

馬蹄七ツ岩 拾丹の界柏原村の路傍にあり土人云猫仲公乗馬の蹄の跡

壺蘆石 玉瀬村にあり方一丈許其文采壺蘆と畫くが如し 夢案ずるに 観瀬村にあり深谷にして号す故に名とす

遵義寺 真言宗

牟尊弥陀之尊 恵日仏作 寶塔 釈尊と 安置 樓門 金剛力士 安置 運慶の作

尚寺初は法通仙人大化年中の創 大中興は慈心房尊意郡内信達寺

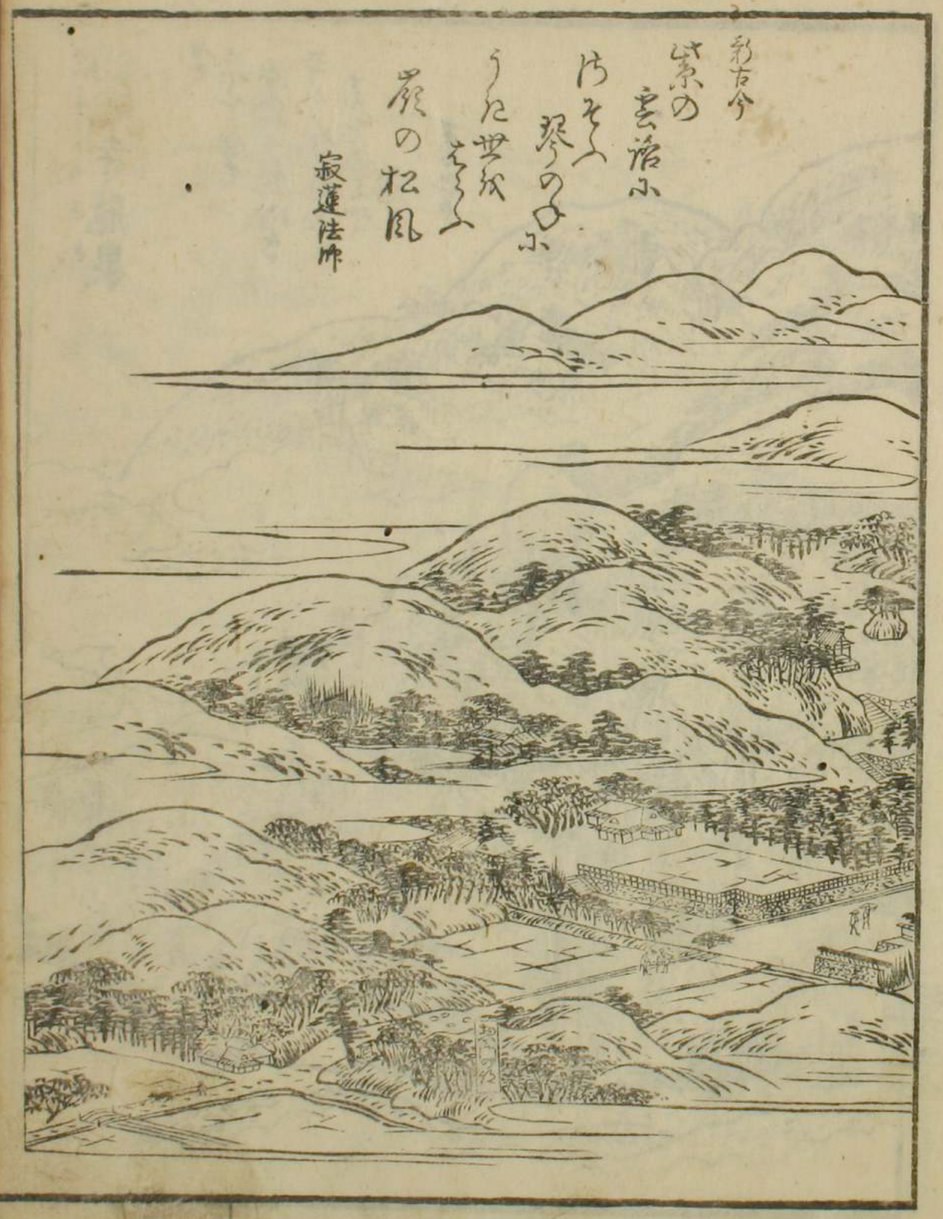
法華一乗供養の導師 寶塔の法花経一部水晶念珠両界の曼陀羅成得

小冥土 受持の法花経一部水晶念珠両界の曼陀羅成得

豊太閤秀吉公伴上発の 末の法華経は希代の寶器

の画とす 初の十六羅漢の 後伴 彫飾を 又東福寺を北殿司

傍あり各別崛く


彩古今
紫の
雲落ふ
ちそ
琴の
ふ
うた世成
そ
岸の松風
寂蓮法師

滿願寺
摂州田辺

西明寺飛泉
拾遺
年を経て
流れかゝれる
滝なれば
たゝのみぞ
かく
安芳新作
摂州八四十八

百敷ちゝ
足利義

神秀山滿願寺千手院 多田院の西南にあり古義真言宗昔赤盛鳥尊
法隆の地なるゆへ神秀山と號に
金堂無量壽佛 開山行道上人の作 常行堂藥師佛 同上菩薩の作
觀音堂十一面觀世音 聖武帝神亀元年三月下旬比叡山の禁衣川
の川上に瑞光あり北人荒木井口冨田江口佐伯
坂本等の氏士ともに伐倒く六士相共に其光源に至るに異香
薫し其中に各々礼をなすに中に千手大悲の像あり六士歡喜し
仏像を負て郡内坂根村に安置仏勝道上人謁みうけ
滿願寺を叢創し彼大悲の像を安置
遷し滿願寺開祖と為る
釋迦堂 弘法大師の作 釋尊を安置 鎮守 牛頭天皇 護法善神
三寶荒神
義文丸塔 本堂の後 牟婁丸塔 同上 仲光塔 同上
多田源氏一門塔 伊豆守國房 頼國の嫡男 下野守明國 頼國の次男 出羽守光國 國房の嫡男
頼國の嫡子三位の長男 下総守仲政 頼國の次男
山縣三郎國直 頼國の三男 左衛太夫藏人國基 國直の長男 摂津守行國 多田太郎明國の嫡男
法華塔 観音堂の後ふあり八幡太郎六代孫足利尾張守家氏の祖母殺法尼妙石
弘法大師の作 塔之乾元元年建塔若ふ石碑あり寛文八年造立
二王門右礎 尚ふの入口ふあり 鐘樓 院中ふあり 寶藏 義文丸着初の鎧太刀仏什宝
國宣 廢宣 將軍家の頼文 其外萬巻書永仏未
若勝の書狀仏藏む

文じ十ちるむ〜 勝道法師の開闢之仏人も若田氏ものく下野國芳賀
郡の產妙年みしく俗塵仏出く勝象仏鑽作〜 聖武帝神亀
元年ふ滿願寺仏創〜乃千手観音仏安置勤修精進しく大ふ
四衆を利〜其像霊應響の如〜祈願滿ぜとい事なし故に弥
〜く滿願寺と号ふ時の人滿願上人と呼ぶ洗ひ〜く本州ふ還る
日光山ふ登り精藍を創ぜ厥后 朱雀帝天平年中坂津守源
滿仲公多田城を構く居に其時為山の霊區と崇ぜ國家社冥福
を延んとく仏寺を帰依〜滿仲季子ふ義文丸といあり志心傍邪
ふ投〜く髮を薙受戒〜く圓賞と号ふ后ふ孫賢 錫杖を授〜て法に
居〜為山二世ふ開祖〜く道化益盛之武藏若司平泰時ふ層
寶塔仏建らふ乃八條若狭若司のまへ人阿弥陀ふ尊仏塔中ふ奉置又
建久二年最勝園寺貞時樓門を立〜二金剛大力士を安置又法華堂
あり若賢人士の像仏安〜奉〜て彌陀仏を大殿ふ置又奥院あり千手

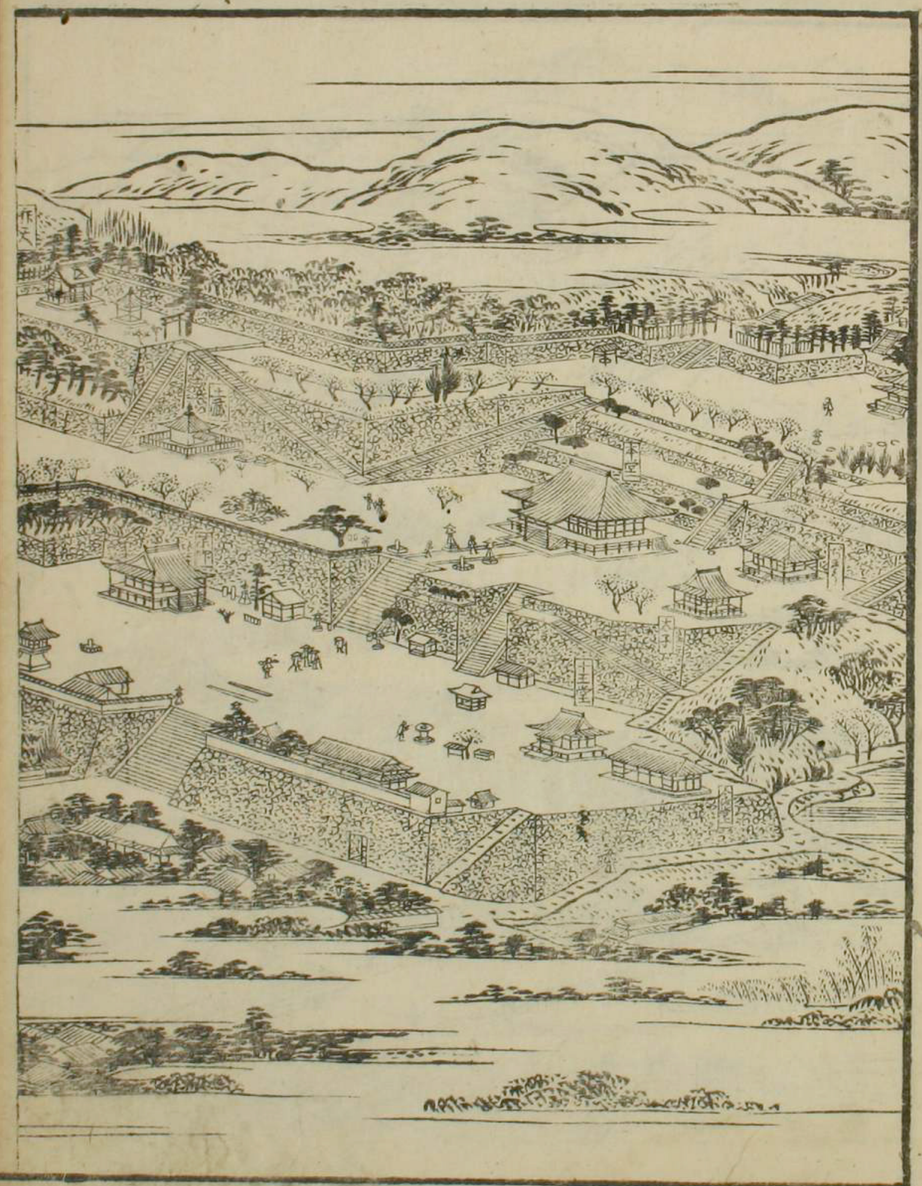
太悲の像及安阿或は常行堂を無量寿仏と置其外經藏鐘楼食堂
浴室有て實に大伽藍なり其後　後醍醐帝正中二年文合度を二品
法親王奏聞して官寺とし次に於足利尊氏光耀を揚て武百僚車駕門に墳
し各私田を捧て香燈を資て故に男女高卑禮謁をなすの市の如し
後祝融氏の爲に廢せられて皆煨燼となる唯奥の一院のみ今慶安
年間に至て寺僧諸の檀信を募て復古を興し寺の東に瀑布あり
最明寺と号て古仏かとなる古寺あり故に名を呼て瀧の
西明寺瀧　滿願寺の領地にて寺の坤八町計にあり高サ五丈岩に倚て落る
入道國々巡檢の時偶此地に西明寺と号て仏院あり土人云往昔鎌倉最明寺此頼
水源王瀬なり流る傍に巨巖多し溪水淋漓として右に觸れ左に倚て
岩石に沿めぐる其を岩窟巖岩躑躅かと咲て風糸斜なり次に池田
供丹なり其を愛す
足形石　瀧の上にあり岩上に大の足形を彫長さ八寸巾四寸計傍に石
の紋あり俗傳云最明寺入道ここに東に
東方石西方石あり菩薩頭と云
千歩の深淵に似たる処に名を
いへり名蹟みな
仏かなりにあり

平居山權現寺旧蹟　平井村の蛮中にあり むかしは伽藍巍々たりしに寺産
の地藏田釈迦田弘法田八藤田凡て五十餘反ありしと寺産
堂一宇遺れり天正年中に滿願寺より
みな顛廢しかく釈迦堂
なほ其後荒廢に移はせる故なり
今は字に唱へ
旧跡のみ遺れり
又煨燼となる右四ケ所田畑も
四氏舊屋　日村にあり 泝潤 平井田中 坂本 尾崎の四氏あり古れみな
義氏保昌の苗孫にて世に
平井 保昌の苗孫にて世に 丹後
玄崔瀧　寺田村山中にあり
西明寺家　日村にあり 仲仲公の家 藤原仲光 光
仲光家　其古墳あり土俗唱て藤原塚と
山本岩左衛門旧屋　日村にあり 山本名 譽の屋遺あり 名を岩樹あり 続
洞屋西湖の
仏法を得
壺中人世の外の
本榜左衛門旧屋　日村にあり 山者諸本榜を榜と豊太閤大坂城に
枝葉繁しかく木かし 秀吉公
て其術を傳て榜を榜と
行基抛岩　日村にあり 行基山辺遊泳の附大岩遺跡を榜て往来の
人池　日村にあり 土人唱穴と云
山本窟　日村にあり 土人唱穴と云

遠近の花旬ハ彩生の比
中山ち安原絶ふ事くん
とく十二ありて〳〵ところく
うらうらある道芝ふげんげ
をくれ芽花を結ふもろ
〳〵くさるも表面の風ハ
実中あるべし

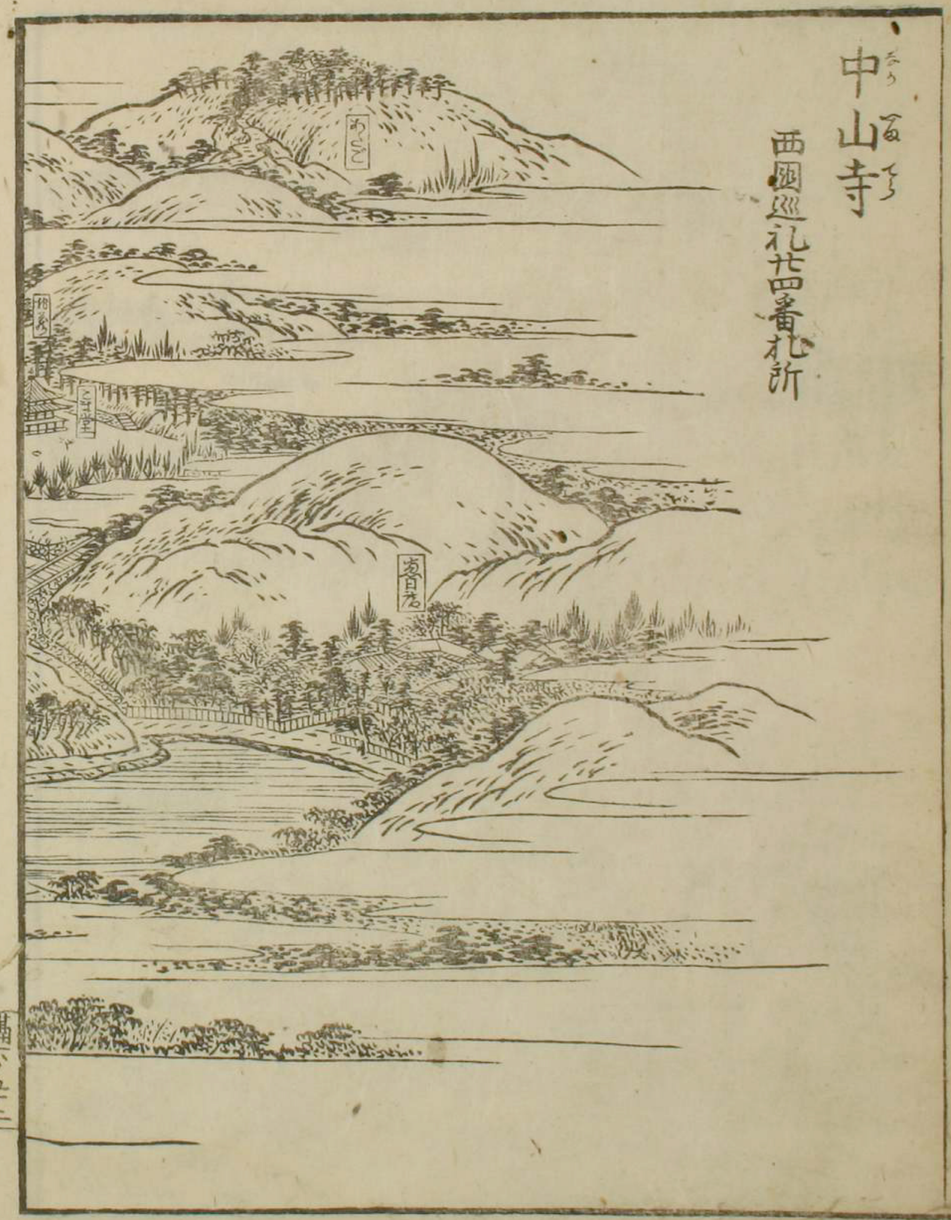
丹羽桃渓

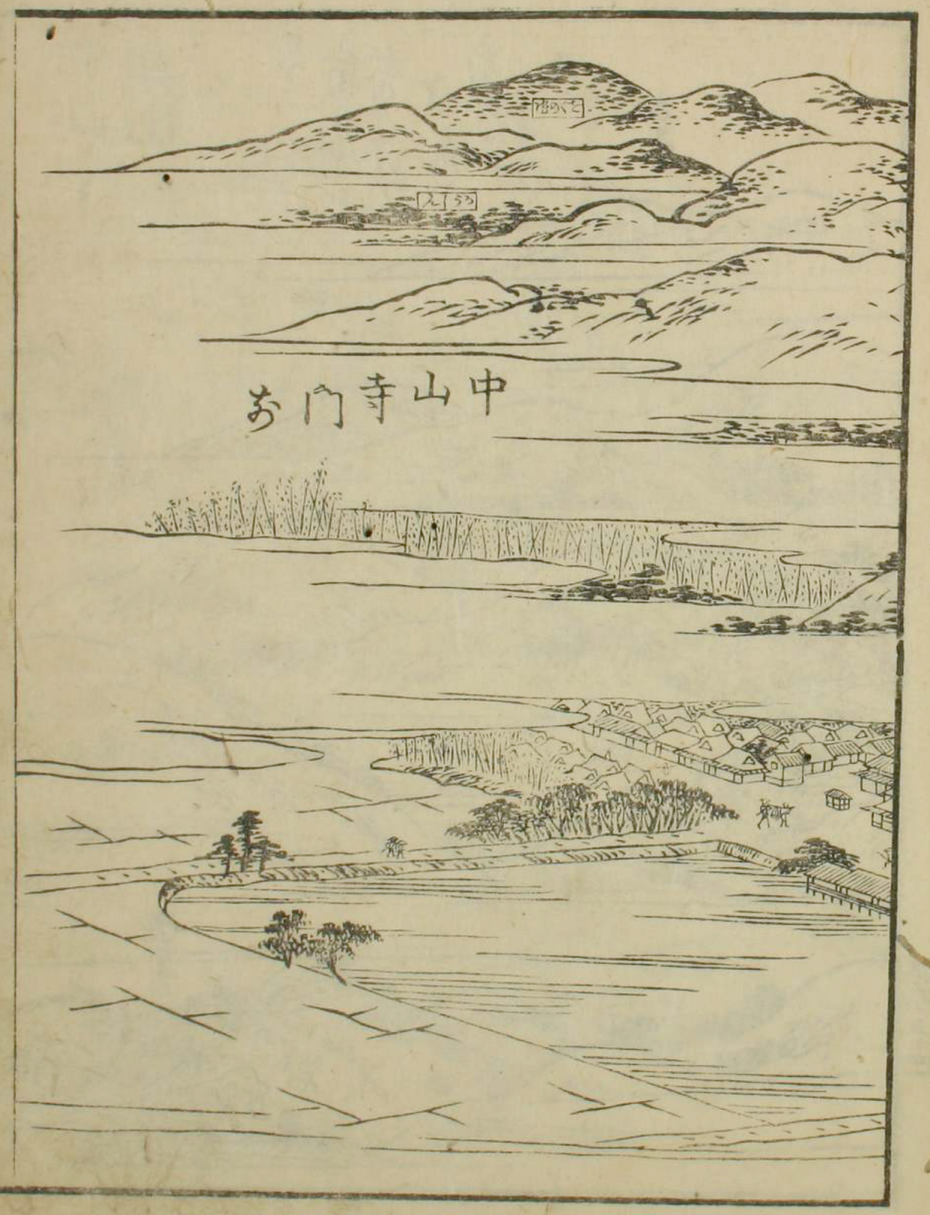
殊勝さ
ろくちの
道を
安楽ふ
ふまん
あんは
と
坊主
ちち
ん
治花
菱九



中山寺

西國巡礼百番札所




中山寺門前

朝使門

中山寺
奥院
高琴
山田の
杖のうらいわふ
とく落ち
茅が花を
雪の
降べうり
高琴
中山駅
中山寺
十三丁
目くらい
杉木村
中山駅
名所記

太子馬
足あと
宿会所
中山川
宿茶屋

紫雲山中山寺 中山ふあり古い山 天正年中以後ちに遷ス
古義真言宗 僧舎五坊

冬寒ミ椿名の中山紅ゐれ椿の四月霜ふるかな 通経

本尊十一面観世音 ミ躰と金堂ふ安置ス中尊ハ聖徳太子石世舎衛国に
長五尺 計 左運慶の作 右康慶の作 各長三尺五寸 西国巡礼 廿四番
毎年三月中旬八月中旬 会 縁起 作り 七月 九日 ふ日 俗
薬師堂 金堂の西ふあり 惣心僧部 地蔵堂 金堂の東ふあり 長覚之作の作 長弐尺
の作 長偏長四尺 計 みろく日如来 安置 弘法之作の作
太子堂 地蔵堂の東ふあり 上宮太子 食堂 下坂ふの方ふあり
十六羅漢自作の名像 安置 五百羅漢像 安置
十王堂 冥府十王 安置 白鳥窟 下坂の西の方ふあり 俗ふ石屋 櫓と云
弁財天祠 上坂西の方ふあり 護摩堂 上坂ふ 忍然王廟
王子窟 出現 愛宕社 山上四町計ふ
鐘楼 下坂ふあり 礼納所 下坂法堂の 二王門 外 金剛力士二王 安置
東ふあり 内 駒大二軀と置
恵日菴 下坂の東一町計ふあり 不動尊 安置 弘法之作の作 長弐尺
山名室 名龍和尚の開基 幽棲閑寂の地 山岩 法 作 作
の所 奥院 本堂より山上ふあり 坂 の半ふ下 祀左迎墓あり 播州
之忍の人々 慶長年中 当山ふ閑居
本社 忍然王 疫神 之中服の
日本紀曰
仲哀天皇二年春正月甲寅朔甲子立氣長足姫尊為皇后 神功 皇后 先是

娶叔父彦人大兄之女大中姫為妃生譽坂皇子忍熊皇子

大悲水 本社の右ふあり 当山の名水 掬 聖徳王 駒 駒ッく岩上ふ立く
駒蹄石 奥院より一町半山上ふあり 蹄の跡多くあり
疱瘡神 本社の後ふあり 疫の疫鬼 疫鬼 爪形天神 奥院の別路
小堕岩 当山艮十八町ふあり 頂嶺 十七町目ふあり
十方を結界 麓 麓 本都 現 今 文官
獨鈷尾別所院旧跡 当山ふあり 仏院多く造立 仏院 愛染堂 護摩堂 寺 八十 町の 跡
と 附 源頼朝公 再興 ふ 昔の 云 乱ふ 田 禄の 天の 後
美文九學文所 当山中之坊 同 孫 山中ふあり 勅使川 当寺門前の
駒足洗川 当山の西ふあり 上宮太子 駒の足 公
麗
文当山の郡内第一の名勝 香炉青漢ふ挂る 鐘聲白雲に
和して 山中ふ櫻樹多くして 風来 繁く 弥生の花盛ふ登臨
それで帰路 高山嶺ふ至るに 石像西宮の浦々遠ふ見えて 沖の

舩ちいさく禁の小田を綾織の如く鮮かゝく風光斜めゝゝ涙拭
富山を　仲哀天皇の先妃大中姫薨じ給ふて後猶名の山辺大窠
谷に葬奉る昔今の堂舎の地ゝゝく古の下院人山皇妃の生母
王子公麟坂王忍熊王とゆ生る　神功皇后に歎ゝ給ふ忽滅ゝ
ゆひく兄の麟坂王六甲山に葬ゝ弟の忍熊王宇治の川瀬に身沉め
ゝを難波浦に流し堂魂崇ゝゝく村民を悩せり是事
天聽に達ゝ八祖連ゝゝく先母の側に藏ゝる　應仁天皇恐れて
勅使大伴を遣さるゝ勅使川とゝ名あり忍熊の宿を問ひ給ふ
忽白鳥と化ゝく岩間より堂宇涌出る則ち大中姫忍熊王の二
神を崇め山名を大悲水と称ゝ其掬する者厄難病苦を免る
あり厩后　聖德太子四天王寺を創る時逆臣守屋大連堂魔と
成仏道を障碍ゝ太子ゝ願ゝ給ふ忽退治天人帰向
ゝく告て曰難波浦より小方に出ゝく紫雲靉靆る霊場あり

太子訪く山に登り紫雲を尋ゝく山脈とゝ梵刹の功成く百済
恵聰恵便の二僧に延くまに處ゝむ山の棲み川あり左子駒を
洗ふ故に名とせり書老二年和州長谷寺德道上人暴に往生ゝく
閻魔王宮に至る焔王曰閻浮日域に三十三所の観音乃霊場あり
一所真地を踏りの悪鬼に隨ひ卿本土に還く人民を勸て巡禮ゆさ
ゝむ爾ゝ昇寶幡を賜ふ德道院に甦く寶幡を左石函に入て山に
藏むもとゝ人を勸く弘通ゝ人ゝ信従るの影ゝ其後二百年を
歴く衆慶ゝ利ゝ人ゝ石川の寺僧仏眼上人巡禮の功德に念
ゝく特に　華山法皇に奏ゝ其須書寫山の性空上人美に珠魔宮
ゝゝ法華を誦ゝ性空曰末世の衆生多く濁悪に染む何れの法
を以ゝ救ゝ救ゝ焔王曰獨に德道上人に囑ゝく巡禮観音の事
に若し性空美賞て昇奏ゝ　法皇二僧の言に感ゝ寶幡に敬礼
あゝく性空仏眼と共に霊跡を巡ゝ給ふ又其後　後白川院に奉

あるを以巡禮しゆゑ國人ましまして絶ざるあり是より先
釋慈信上人當山の本尊を啓しく佛告粗あるを寛元享釋書に
詳し當山を鉢峰みしく其中間あれを中山寺と號く或極樂國
土の東門中心を相當ゆゑ名付るもいとう和寺を稍名の中山と稱
古き殿堂巍然としく今の奥院の山嶺あるて傍坊八十院を及し
天正の兵火を罹てみな煨燼とある其后今の地下院を遷しく豊臣
秀頼公始く修を佛寺建營しゆゑ

蓬莱山清澄寺 武州谷村の山中あり中山寺の奥院より十町許西南あり 坂路峻しく 古義真言宗

本尊大日如来 弘法大師の作上古は東の山上にありしく伽藍壯麗僧舍七十二坊今同地に古礎多く遺る

荒神社 上総の地にあり益信傳正の作長弐尺阿須波明神とも 又清荒神とも称次

加持水 本堂の後にあり慈信上人 影向榊 本堂の後にあり三寶荒神 此本に新向しゆゑ

感得の霊泉 糸櫻 庫裏の前にあり蘂絲もく〳〵 花の盛なる幽邃さう

世れ此山に梵園寂寞たる霊場とむし〳〵寛平五年の春

宇多天皇皇后と倶に同義と兄弟の聖傍之案未だ奏して曰攝州の
蓬莱山といふ霊岳あり四是釋迦弥陀弥勒の三佛と澤創と
建く安置しゆゑ天下清平人民豊饒ゆゑんとく曼陀華の香本伝
献しく義覺ゆゑ龍顔大に歡喜有て其地に精藍を創し昂其霊
本伝に仏工定圓法眼に命しく之尊を造しめられて本尊と
僧正葬親僧正益信の二傍伝延く開祖と〳〵台密の法を傳し國家安泰
を祷らしめゆゑ其刹に寶荒神堂の榊に新向し仏道守護の鎮守
と祈らんと示現を因茲高谷七嶺七溪の猛地に勧請し修法殿密
あり〳〵に異香芬々やし〳〵く霊威新あり故に伝清荒神
と崇奉あり中興慈心房尊恵上人を基獄の學徒に
しく多年法筭の持者にあに止錫しくをめゆ 高倉院
第安二年十二月廿二日閻羅王法筭十万部融通本願金伝修
し尊恵上人を請ぜく慶瀸導師とあ次其時閻王自書金

字の妙經あまた所嘱〳〵く曰大日本國三十七所の津剏なり
清證寺其一院なと云ふ經今ふ尚ふの什宝と云ふ古き
東の山嶺ゆ〳〵く伽藍叢立ふり寿永二年源平の寇火ふ罹く
諸堂灰燼とする厥后將軍右大將頼朝公尊像の靈驗を聞て
上ふ奏〳〵勅を奉て復あまた所再興ふ於是ふ川色を增昔ふ復る
又其後大空上人あふふ来て止住〳〵苦修精進〳〵く利濟所勤ふ
年凡そ二十年或る王支提を建く龍華三會を期ふそれ〳〵
鎮守荒神の靈應著〳〵く萬善融通の人民所擁護〳〵
ゆふふ法晴を云ふ殆人間断ふ〳〵 尚ふ方丈の庭中真妙ふ〳〵く 脆の糸數所曜ひ
花ふ四時ふ〳〵〳〵く盧山の
糸地を繋く風を絆ふ〳〵

貴布神社 今貴布禰明神と称ふ延喜式出ふ和の生土神ふ
然谷村ふ有り

寶家 同村ふ有り土人云ふ堺の色みく 物所拾人附ふかゆ〳〵ふ
不附ふ福德所得ると

川面神祠 川面村ふ有り ふ地の生土神ふ
今大梵天王と称ふ

小濱驛 昆陽莊都會の地ふ町名七屬邑四交易の商人多〳〵
豊太閤有馬入湯の時ふ旅館ふ故家今ふ有り

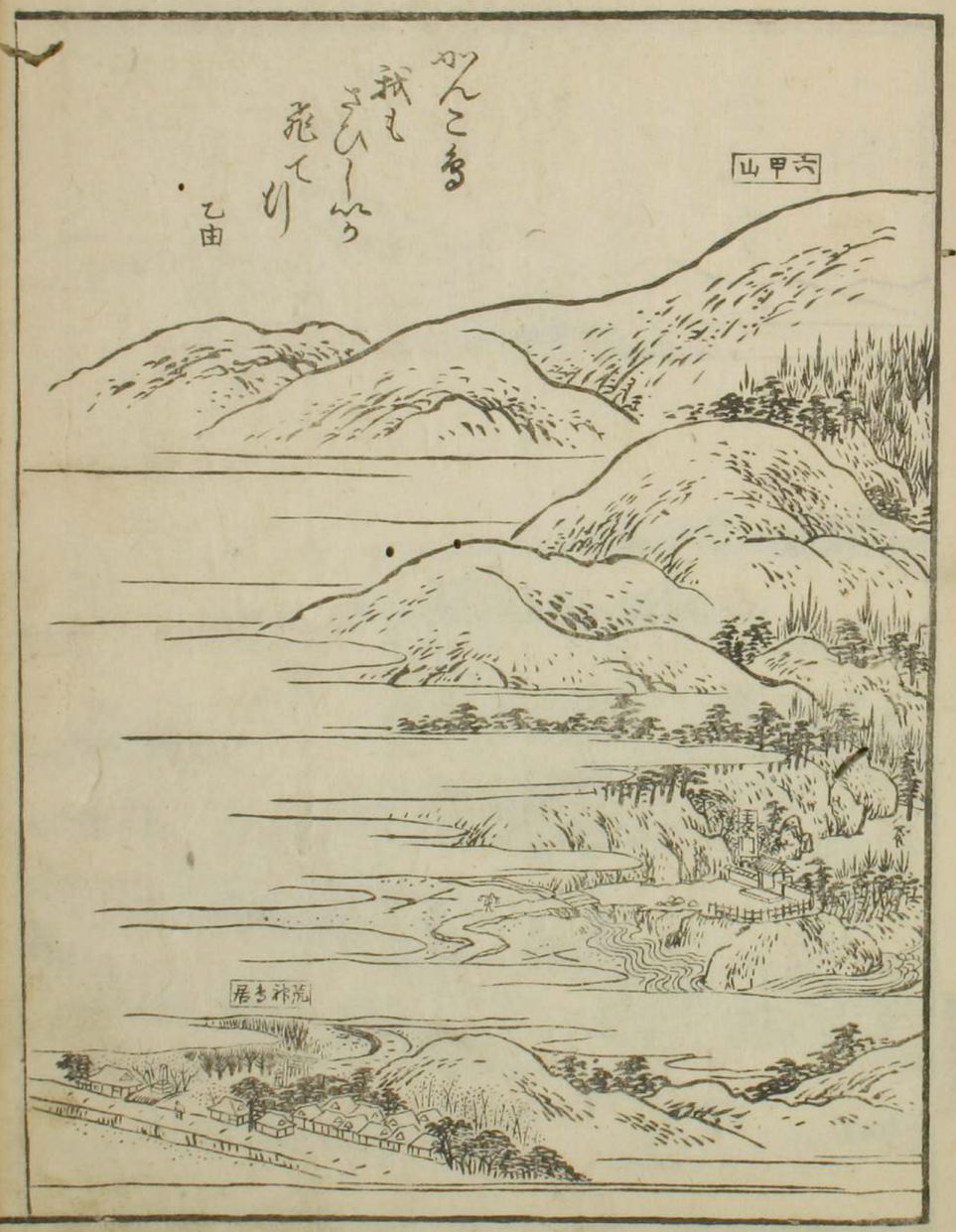
奥村正信旧屋 小濱ふ有り傳云むかしふ今の某谷村と小濱と明應年
中奥村孫兵衛正信が兄貴某ふ八尾伯某攝寺若秀房
等ふ地を代平げ初く庄内所所ふ〳〵紀今の小濱とあるとり
奥村う旧屋市店に有く蔵屋と呼ぶ

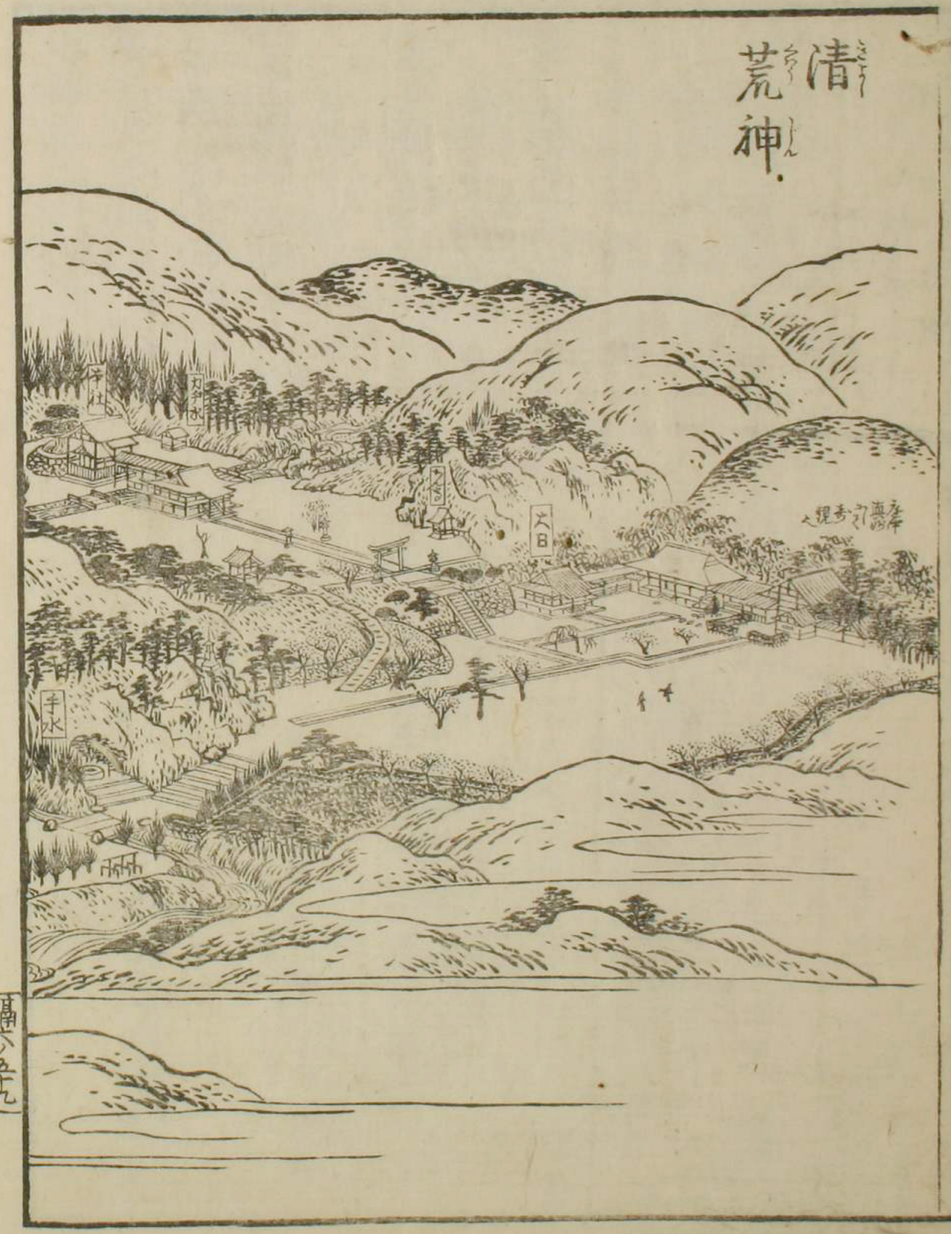
八尾福村二氏旧屋 小濱ふ有り奥村正信う兄福村氏今奴利藤と
八尾の苗孫も亦壺屋と号ふ文禄年中濱井長政
ふ所と換地〳〵く奥村福村八尾の
二人と小濱庄司と〳〵〳〵

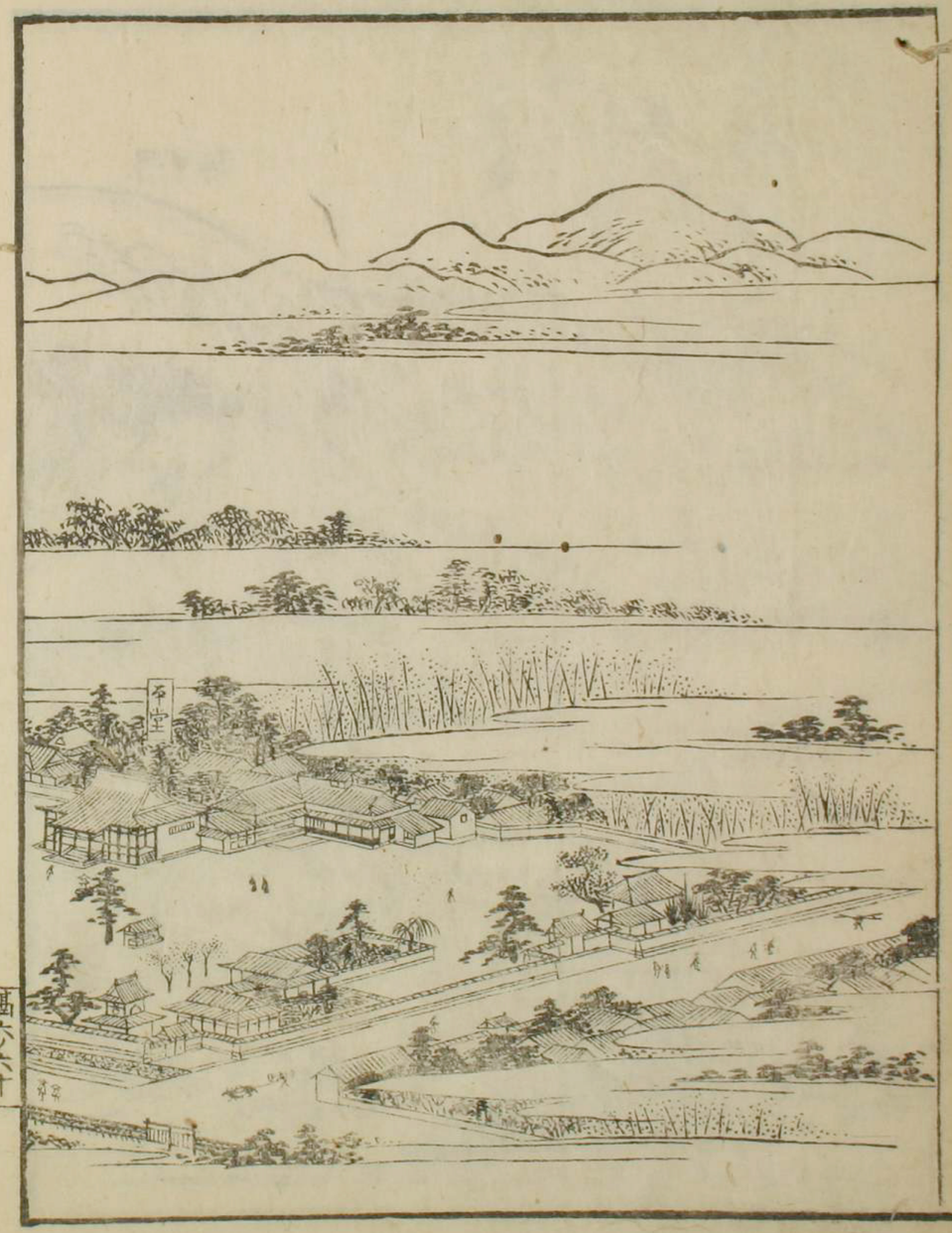
慈雲院 小濱ふ有り寺記云奥村正信う玄孫正利と云ふ者多病ふ〳〵く
中心の願者ふ平金所所ふ
感得次國是州室を建ふ或日金洞長久すの大悲の像を
安〳〵慈雲院と号〳〵〳〵

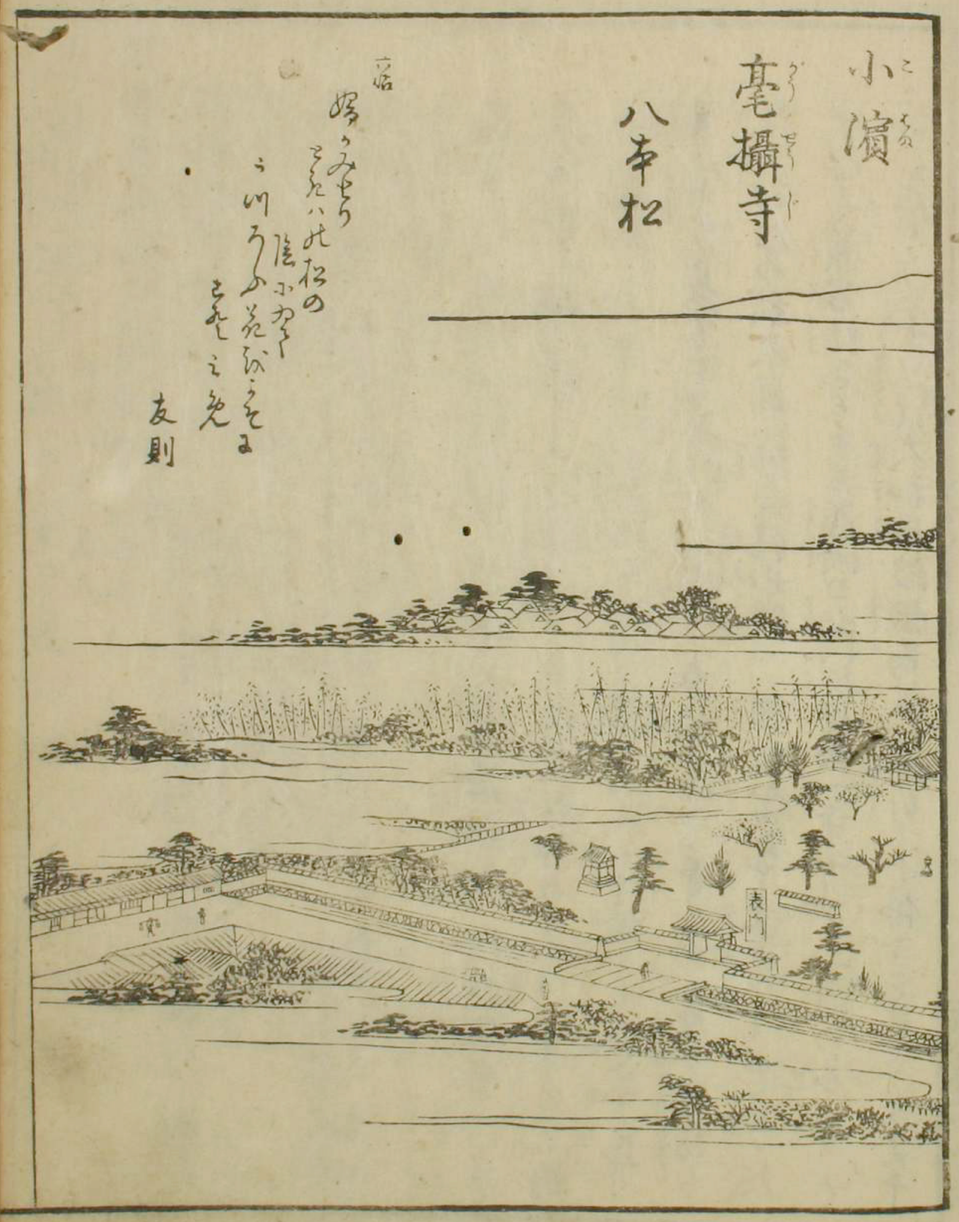
法仙寺 小濱ふ有り淨土宗
京師紹恩院の末流ふ

本尊阿弥陀佛 甚日の祀立像長三尺角基を沙門法仏ふ有り
堂ふむかひ合掌〳〵〳〵 仏号所唱念佛を修次ふ有る衣所の
阿弥陀如来来迎〳〵〳〵寛ふ汝 瑞心淡〳〵だ地に於く一寺所
創〳〵つれ所安置を〳〵 有繪の地と云絵〳〵已に明国
建〳〵 枕屏異 番差〳〵 特のおもひ所ふ所所州
南都 寺人の客傍佛像所 貫来つく法仙に與ふ古る所
見まれ正〳〵く 爰の中の客容ふ〳〵く 甚日の祀地と云ふ昂
一宇所宮建〳〵く
法仙寺と號ふ


かんこ鳥
我も
さびしさ
花てり
乙由
六甲山
荒神寺居


清荒神
手水
大日
手水
摂津八五十九





歌
ゆきみちの
そらハ此松の
陰かくす
いりあひ花ぞ
さそひ
友則

出雲路山真宅攝寺　小溪ふめり。浄土真宗西本願寺ふ属ふ　運慶の作立像　長弐尺八寸

本尊阿弥陀佛　俱ふ脇侍ふ　安阿

宗祖親鸞聖人影　聖人自画遷化の後翌三代覚如上人角山の骨灰を漆ヌ和しく真宗と塗籠故ふ骨墨の沛素と称ス

上宮太子七高僧　本願寺第住上人筆　六字の名号之尚ち角基

繁初本尊　覚如上人筆尚宗の本尊　初て真向の本尊阿弥陀乃像ふ

画く授與しゆ〻故ヌ真宗第初の

本尊と賞ト名る

尚寺初い丹波國六人部ふありて天台の浄刹ス　後醍醐帝沛宇

糸師出雲路ふ遷しく後青菴と号次是勅願ふ〻彼　帝の宸翰

今ふ存在せり寺職素当坊本願寺覚如上人ふ帰依して真宗となり

昇覚如の長男蓮秀乃ち〻ふ止住しゆひて尚寺第二世と成素当坊ち

化益のたゆ就第國ふ新た清水頭ふ一宇ふ造ちて毫摂寺と号ス

中沢ふて兼帯所ふ〻ふ尚ふ二門徒の其一寺ふ〻一派の本寺と

なるそれ〻ち素当坊ふ大和丹波但馬等ふ巡りして仏寺を建立ちる事

多〻みな門下ふ附属しく今尚寺の末派となる願后天正年中

本願寺第上人の代ふ尚寺若秀坊八尾福村と俱ふ尚橋ふ領じあふ

今の如く建立し尚ふ本願寺沛門主の遊枝来て寺務しゆり

八本松　協内ふめり近世寶暦年中風早中納言公雄卿尚院（内縁ゆる

三條右大臣季時公第詠歌黙第ふ松盡の巻の好　冷泉大納言為村卿

法の園や小溪の古ふ年ふかく生ひそふ松の世ふるたてらそひけ寺

やく法の教ひをはしえく年重ねる　清水谷大納言實業卿

八本あり小を滿の寺ふ社ふ緑ちく教いく世の春とあくん　庭田第大納言重熙卿

いくふとせさ世と見せそ八本ふ列小溪の松や春と色ふ染ん　沛小路中納言裔第卿

八本ふ列松も〻ふとせの法をえく小を風の春ヌいろふ染ん　四園寺權中納言實季卿

生を多ふ成おり小毋久〻しきの寺社八本の松れいくふ世のか家　中御門第大納言家長卿

ふ年ともこ〻ふ多ゆ〻しゆるる八りやの松れ法の本ちゆさ　尾崎右大臣立家卿

八本ふ列法ふく〻ふとせ色ふ見ん小溪の松乃ゆ〻ちたいかさちそ　藪左大將保季卿

法ゆ〻ふく教生志ふれ度の寺ふ八りゆ〻ふ〻ふ世の小緑ふ〻ふ先ふ　豊園治部少輔尚資卿

かけるた色をゆ〻れ万都の如く〻ふ教ふ小を風の春ヌ色ふ染ん　清水谷右少將公美卿

園池左衛權佐実祐卿

箱裏書曰攝州小溪毫攝寺八根之古松詠歌十首巻一巻賜菅神院住空大德者也

やたはめく八本の松れとの第をつ〻ひ色ヌ染ん　風早中納言公雄卿

見佐神祠　小溪の辺見佐の地ふめり此ふ本の生土神とし

土人見狭明神とし〻

日本紀曰

天武天皇元年禮祭高市身狭二社之神

鴻池 鴻池村ホあり慶サ三百畝一名畔池といふ鴻池ハ仏池ハ水鴻ちくあり川まる少く仏名ハ仏ちゃ

續日本紀曰仁明天皇兼和十一年二月攝津國言ス依テ去天長二年正月兼和二年十一月両度勅旨定河邊郡為奈野可遷建國府而今國幣民疲不堪役望請停遷彼曠野以鴻臚館為國府

梅ノ小國府祠 國府城國府沈等の考兼和の後ホ興るあらん

慈眼寺 鴻池村ホあり仙國山と号ス禪宗曹洞 池田大慶寺の末院ス

布尊釋迦佛 安河内の佛 圓心の初頃前ス其後真言宗の傍ちまち分寺ス又其後

桂冒和尚再興ス

慈眼禪寺と改む

鎮守八幡宮 神像束帯弓箭を携て 馬上のる躰を安に

扇野 荘村の郊原と仏母ホ雨乞ホ雨れむ母ス出る

扇母の史ちゃ母の薊徳下郡ホ祀ちり

小戸神社 小戸村ホあり延喜式出小戸衆根ホ祀ちり

土人小郡天神と称ス

安倉 沈岩者稱出在家等安倉庄と云傳云聖德太子中山寺剣の河驛沈ちで先驛と安んちる義ホよりく安驛と号ス今土俗安倉と書ス

日本紀云孝德天皇白雉元年是歳漢山口直大口波吉士胡床於安藝國使造百濟船二艘安倉村ホあり南中山文殊院と号ス真言宗

觀音寺 聖德太子ホ創ス

布尊十一面觀音 太子の佛仏立像長三尺中己の刻ある少 新中己といふ 太子驛ホ驛ホ驛ホ河驛沈ちで先創ス此名も安驛と名づけ今又 又佛反ホ將軍地藏青面金剛の二躰沈安墨沈俱ホ安河内の佛ス

昆陽野 昆陽荘十四村あり寺本 池尻 新田 山田 時友 友行 東富松 南堂 池尻 千僧 大鹿 神領 昆陽 等の郡く 舊名昆陽の母といふ昆陽村京師ちり山陽道の往還あり驛舍あり町名七屬邑四村昆陽母昆陽松原和奇ホ泉ス

津國の古名の芦ちゃ聖ちゃ陳ちゃ苦ちゃ

新後拾 経波潟芦火の燒芝の煙ホ

支本 立ちゆ道ある御代ホあらんとも松ホ

日 ちゃ思ちゃ経波の浦ホ見ちゃ夕日かくちゃこちゃの松ホ

風雅 津國の年奈母の麦ホ見ちゃ

家集 淀ホ書ていさ庵士の人ホ見ぜん

光後 等持院勝左大臣

家淳

仲業

彈正尹邦省親王

家淳

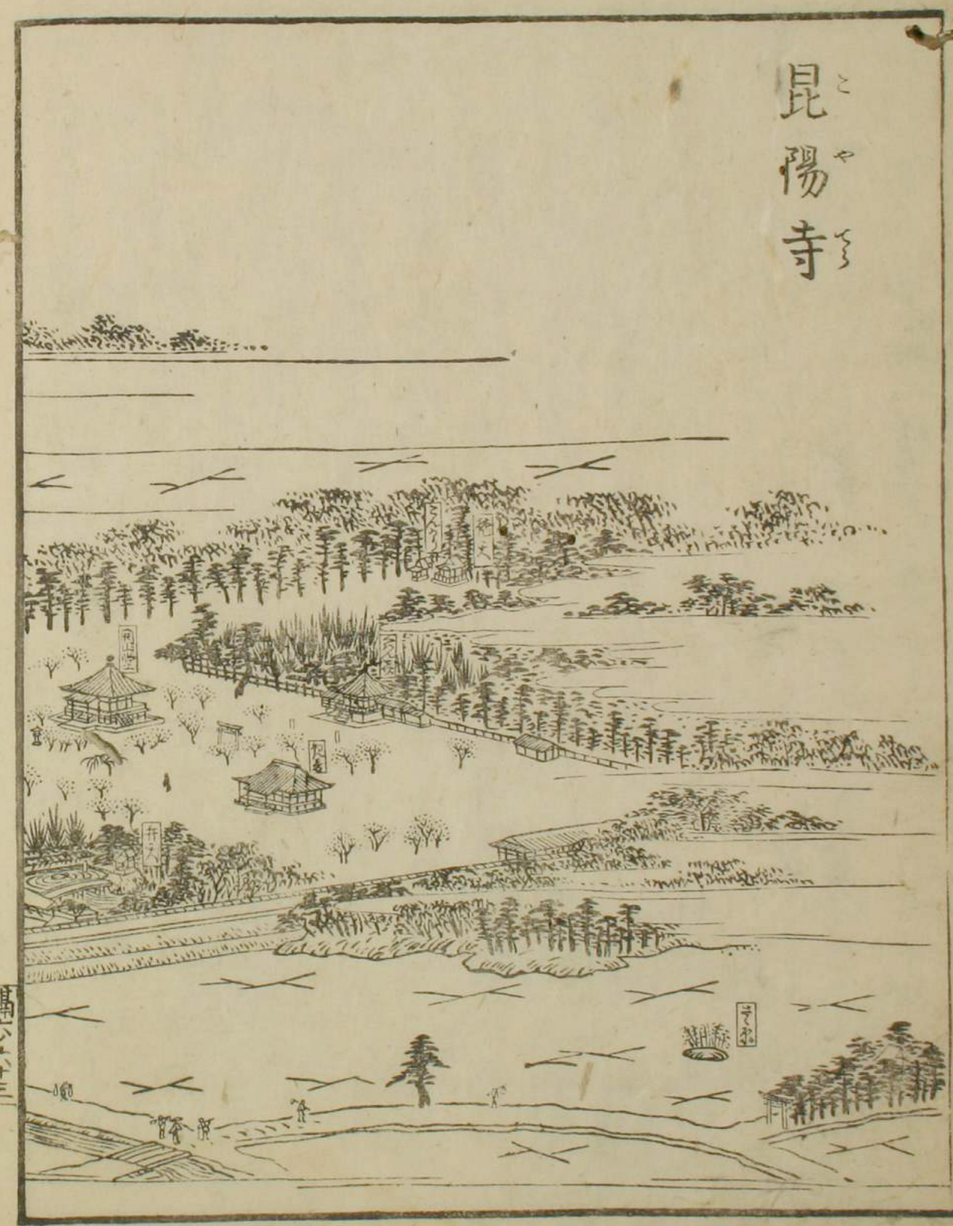
昆陽浦 昆陽入江 今ホ昆陽左い母ちゃ入江ホ西海ホ後き波海の船ちゃ注来に古有あり

支本 津國のこちのうちの風吉つれて芦の結葉ホ秋ちゃ朱ホ久り

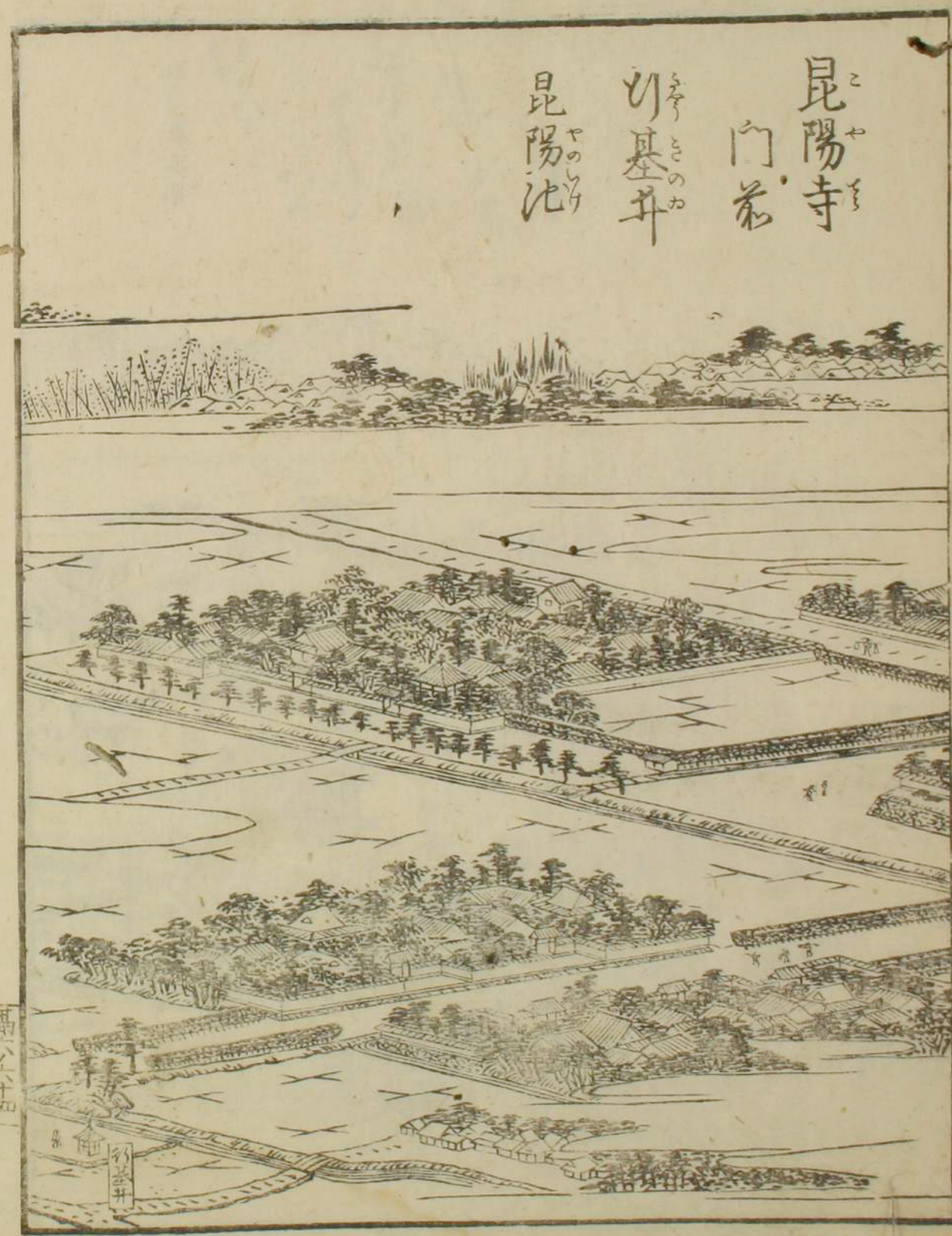
日 葉ちゃ入江の芦の葉ホかれ中そり葉ホ

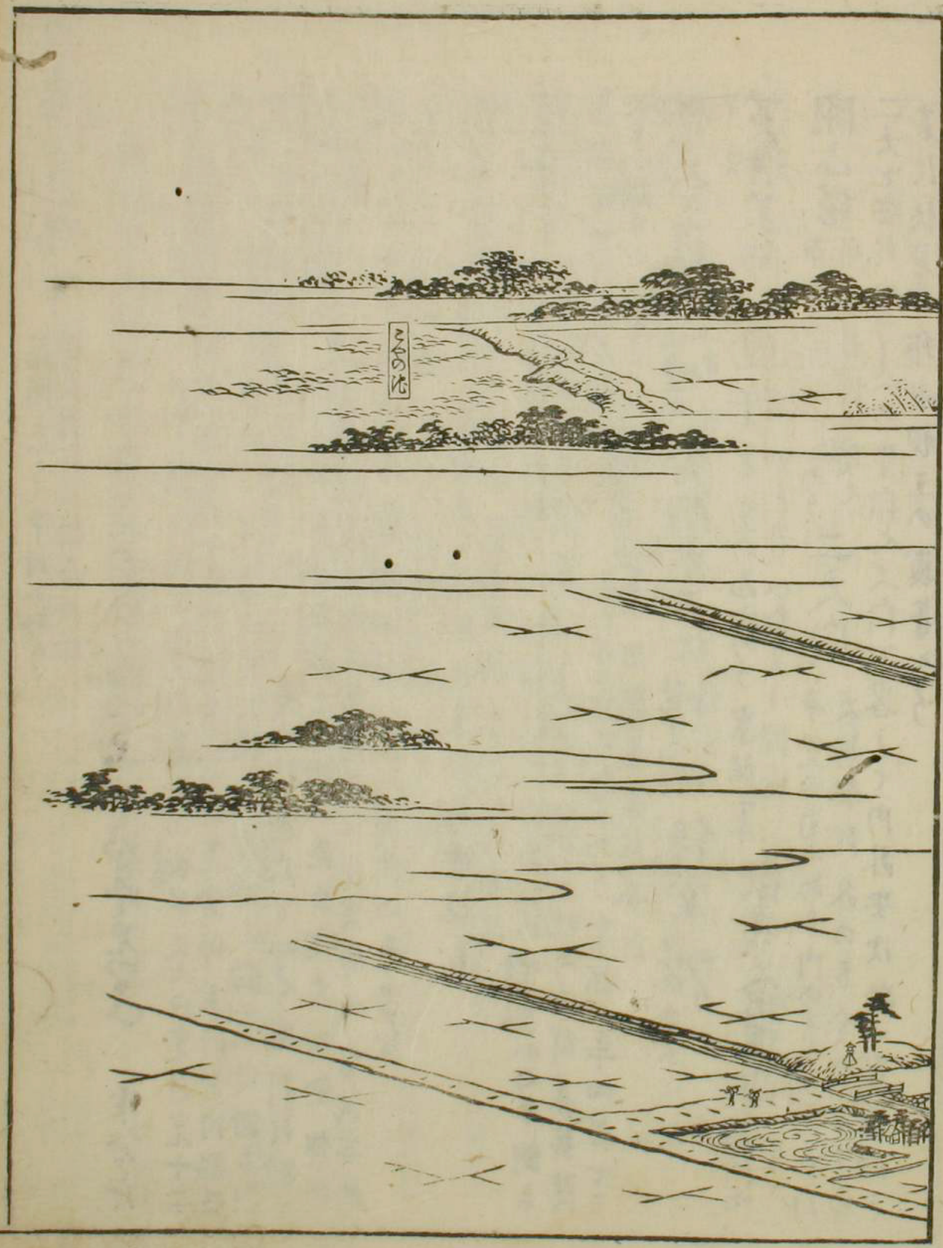
範光

後人ちゃに


昆陽寺

五百羅漢
山家
たのつゝ
きよたゆ
みうれて
玉ゝたかる
法を
しる水
あり
本堂
吉本村


昆陽寺
門前
刈藻井
昆陽池


こやの池

崑崙山昆陽寺

昆陽庄寺本村にあり 古義真言宗 僧舎六坊

寺称 東ゐんをまつ聖をこめて立ぬれハ昆陽寺ともいふなり 慶人ちかし

本尊薬師如来 本堂に安す 次開山僧正行基の作 長半丈六 日光月光十二神将左右に安す 次近年出現黄金仏薬師堂内脇仏御厨子の内に安す 次 **開山堂** 中央行基菩薩 左文殊 右普賢 又脇士に持国多聞天を安す 次共に行基の作 楼木を以て彫刻に類ハ幼稚関白家熙公の真筆

大日堂 中尊金剛界大日如来 左弥陀 右釈迦 倶に行基の作 又堂内に弘法大師の像を安す 長三尺八寸許 又大師の旧蹟四国八十八箇所の本尊をともに堂に模して堂内に安す

観音堂 中尊十一面観音 左准胝観音 右馬頭観音 又西国卅三所の観音を模して安す

護摩堂 不動尊を安す 額ハ六條中納言有藤卿筆 尊容彫刻の儀成あり

弁財天社 堂前池の中嶋にあり 側に楼木二株あり 行基菩薩

梵天王社 開山堂の西にあり

歓喜天社 本堂の後にあり 享保二年四月七日出現の尊像を安す

金剛童子社 梵天王の後にあり

鐘堂 池の南にあり

黄金薬師出現所 本堂の西にあり 享保二年四月五日此所より出現

歓喜天出現所 旧跡にあり

開山塔 本堂の東乾林中にあり 行基菩薩の墳也

二天門 本堂の南にあり 内の方持国多聞 外の方金剛力士を安す 次額ハ崑崙山と二天と安にいたる 中門之大門を略して内外安す 書ハ伏見宮邦永親王の真筆なり

大門旧蹟 二王門の南往還許にあり 今古松二十株許栽る

主水堂 大門の旧跡の東にあり 伝云 聖武帝御宇天平九年 疱瘡異国より来り日本にわたり流行す 帝上ハ王侯下ハ庶民に至るまで此病をうれへ給ひ 行基に詔し給ふ 僧正みづから井を掘給ひ神通を以て天竺無熱池の水を遷し秘法の加持し給ふ 已来諸民此水を服すれバ疱瘡のかろき事を得る 其霊験世に名高し

昆陽池 古しへ成綾くし中ハ周廻五千余歩

拾遺

芦の葉にかくれて住し津の国のこやもあらはに冬ハきにけり　源重之

後拾

かもめこそ夜かれにけらしゐなのなるこやの池水うハ氷せり　伊部長能

金葉

ちかくなるひまの東風にてこやの池水氷とくらむ　藤原仲實

千載

さ夜ふけて浮寝の床やあれぬらん氷柱なかるゝこやの池水　権中納言経房

後拾

こやの池芦間の水に影さえて氷をそふる冬の夜の月　権律師仙覚

続千

津の国のこやの芦火の埋火にてあれ行ましにみえぬにハあら　二品法親王覚助

新後拾

五月雨に小篠か原ハ見え渡せはなかりけりこやの池水　順徳院 左京内侍

延喜式曰
故僧正行基混陽院雜事者攝津國司與別當僧共知
検校云云　三代實録云　貞觀十八年三月三日是日山城國泉橋
寺申牒曰故僧正行基五畿境内建立四十九院
支道ふい茅屋累々殊勝の古寺ふ〻く鐘聲香餐に響て清月
光松と照〻〻く滿地の落花寂々たり嘗て　聖武天皇
の御宇僧正り基國家鎮護衆生利益の為ふ猪名野篠原に
點〻神亀の初ふ奏聞〻く天平五年ふ開創〻昇官符に賜ひ
勅願所と〻ゆ〻僧正の引率三十六客の氏族二十二縣ふ分處〻
て庄司村主と〻池を墾田と開て院家ふ施入〻昆陽庄と號け
其中央ふ伽藍を建く梵宇閣中ふ毛ぐた冊壁画裏ふ鮮ふ〻く
若盡〻美をはくせり半丈六の瑠璃光佛十一面觀自在ふ梵天
帝釋みか僧正のえび〻〻〻く安置〻ゆ〻國家清平五穀豊饒
の祈禱ふ〻く毎年七十二度の神事佛會ふ僧〻又院家の

地を分く鰥寡孤獨聾盲瘖瘂癲者等の貧賤ふ與へ拝開山ふ基ゆ
百海國王の紹ひて高志氏郡州人名郡の人々　傳記に天平神護元年出誕の地ゆ和泉名所
圖會ふ天智帝七年ふ誕れて南て十五年の間薩陳〻く素所寺ふ
出仕
入瑜伽唯識等の論を新羅の恵基ふ學ひ又義淵ふ從て智恵
證道ふ磨を二十四年ふ〻く具足戒を德光法師ふ授て常ふり化
を事とせられるふ道俗の追隨る者百千に餘る其巡りの嶮所ふ
橋ふ架〻或ふ地を開く田園を拓示〻池渠を穿ちて堤り除て墓に
見聞の及〻所みか功績を加へ故ふ州民今ふ至るまく其恩恵を蒙
まり拔王畿の内ふ精舍ふ營む事凡て四十九院之其未往の間昆湯
池の側ふく獨の病夫ふ遇り者り基ふ告て曰吾業病を受て此地ふ
遁れ去とそ〻し歩り難ざれて憂洛ふ入く舍ふ〻〻事純ら飢を
凌ぐんさるふ池ふ陟んぐ奥を取微命を繋ぎ侍るり基曰人〻ふ汝ふ
食を與へ殺生の業ふかを事ふれ則其修肉ふ捨て放ちゆ〻皆〻て

樂々波を起く流々今五一旨半赤身の奥公沈ふ霊験を開のひ立狼若干を賜ふ遂に大伽藍となる斯く崑崙山の
昆陽寺と号し莊田一千五百石寺奉ゝ金塔王閣堂々ゝ
大小道化を振ふ四来の黒白帰仰する者市の如し時の人攝州第一
の名刹と賞し情を天正年間の冠火に罹く悉烟燼となる厥后
古刹の遺趾に立て今の如く堂宇を営く市尊及び開山乃
僧安置の詳なる古碑の銘文に曰く

昆陽寺鐘銘　壹所

建立壹院敷地　肆町

院家惣領空閑荒野　壹所

東限伊丹阪南限笠池堤　大小池十二所

肆至西限武庫川北限後通墓　在四至内

在攝津國河邊北条武庫東条

金堂壹宇　三間四面瓦葺面講堂一宇　五間四面檜皮葺

法華堂壹宇　塔二基　各五重

鐘楼一宇　経藏一宇　各瓦葺　高倉二宇

僧坊三宇　大門一宇

奉安置雜舎二宇

十一面観自在尊霊像　佛半丈六像　梵天帝釋像　各一軀

各僧正自作　菩薩禮拝石一面　廣一尺厚三寸

寶具大幡三流　小幡十二流　樂器摺具花器等

右壹院建立縁起者本願行基大僧正奉為鎮
護國家利益衆生天平五年癸酉黒猪名野朝臣
生浅薄之地所草創也天竺婆羅門僧正朝臣
之始知行基僧正乃是文殊之化身也　國王
大臣専致帰依万民百姓悉成渇仰爰菩薩奏
聞公家申請猪名荒野堺四至立勝示千自
開發水田一百五十町施入院家永不使國郡
搦領也只毎年勅修七十二度之神事佛事為
大上天皇御祈所以院家地利取與為
華　自　瘖瘂孤獨卑賤類也若臨末世
國　吏　万姓忽緒我院家令押搦領者
轉　寥　旱　魃　暴　風　之難競起四海共已滅滿足菩
薩遺誡付属五人弟子番々出世守護我院家
可相續三會朝云本縁起廣取五箇國内建
立僧尼院四十九所布施屋九所池十四所
梁六所堀河四所樋三所溝流七所堀井一所
也大僧正以天平勝寶元年欲令蒼生得其利
化遺誠付属光信法師門跡相經宜加撿知為
貽能事於龍華刹鏤起文於鳧鐘干時天平勝
宝元年己丑二月十五日遺弟修行師位法師
法師光信法師清淨進守大法師善添持首勇
位修行師位修行師位法師位法師位修
僧福尋寺記之

天平勝寶元年己丑二月十五日雕之
粤有菩薩奉号行基　鷲嶺攝足　親聽真門
馬臺現形　普化卒土　初闢荒原　迴建吾寺
鑄一鳴鐘　銘四至勝　暨流濁　乍没白波
建立之歳　重企造成　榆躔屢迴　蒲室惟欽
今毀銘範　亦鏤記文　万人投財　衆僧勠力
定知本願　遥鑒中懷　迴此嶺功　資彼聖選
金輪久轉　王畑鎮明　柳營風静　松筭歳昌
冀輔大守　掌詮衆機　累葉変世　大椿懸齡
護持法主　恢弘私窓　惠風久業　浩水遍灑
寺中安穏　至三會期　境内豊饒　跨九年畜
洪音耶至　各驚長眠　餘薫修覃　齊脱極苦
十界無量　共處日宮　一切有心　同遊月殿
千時嘉暦　改元歳仲　冬十七日也
別當権律師法橋上人位慶瑜

昆陽亘

冷の乙侍ふ　宮ノ　播磨街道　古昆陽橋　賢子橋等の古名あり

橋もあり　抱渡橋

あしのやけそのつらぬいちりらん駒ふ陸をて　紀国法師

津国のそのつらぬかるあしたかたそ系之陸かうけて　季経

猪名小笹

昆陽寺の東田圃の中ふあり　岡扉の用具ふ　或ハ日山篠　三蓋しう枝葉繁茂をとあり　山人の苗孫今ハ昆陽村ふあり

猪名権現祠　ふ　村ふあり　銅六年り基　然聖山に治ぐ　神躰をあり　武尊容ふ　新くあふ　日本紀曰　雄畧天皇十二年　秋九月　李猪名部　真根以石為質　揮斧斲材

荒府沈

大鹿村ふ属　次周迴三百余　畝　沈のふハ　村人　ハ国府の　祀人　字ふ蒔の字ハ書　渋ふ　荒蒔　実ハ荒牧　荒府と書　一説曰　沈荒蒔　村ふ属　次府の

名産蓴菜

沈の名州　香化ふ異ふ　古奇ふ　沈に

川上やあ婦の沈れうき苔うたあるや人をかし　ぬ忠

名寄

白波のあ婦の沈のうたあ等引根ふたて玉ぬきあるあ　家隆

禮祥石

大鹿村ふあり　庚寅天　三すり基　大士沈石上　みく天神地祇と　礼おし　ゆ　ふ　昆陽ふ　古猪の銘ふ出さう

荒木自然塚

伊丹坂辻村の　ふあり　天正七年　荒木　猪津ふ　村重ふ　伊丹城　隔り　時子息　荒木自然　年十四　京　師ふ　坊く　殺害　ふ　人　懐　んく

あ　ふ墓を立る　ふ上ふ　古松　三株あり　側ふ　碑文と　建　其文面　居　寺の

自然居士と　謬　ふ　自然居士の　塚ハ　京　師西九条　福田寺ふあり

同　蹠ハ　泉州　自然田村ふあり　自然居士

の牛ハ　岩州　毛庫ふあり

和泉式部塔

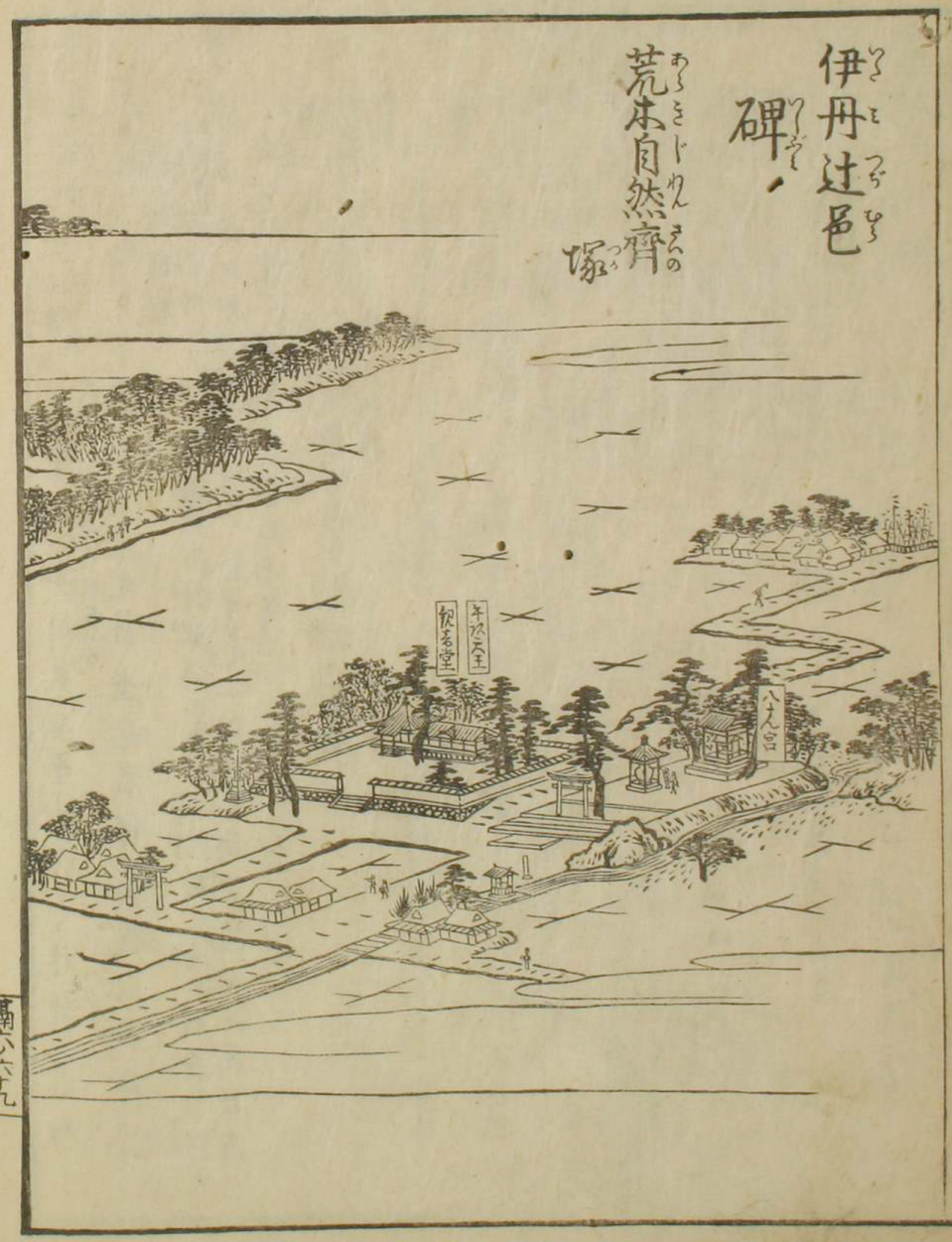
辻村ふあり　由緒不詳　側ふ八幡宮のやしろあり

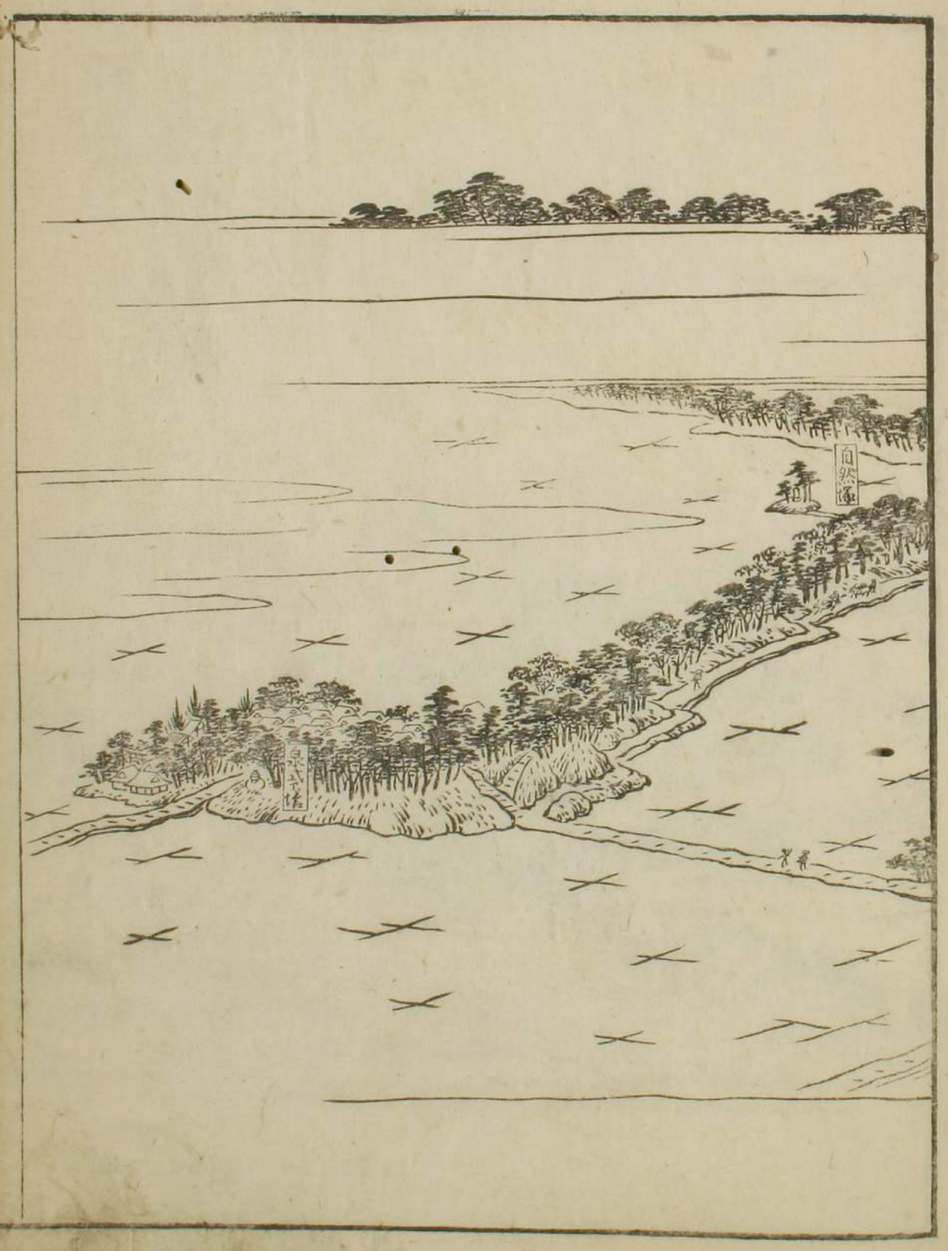
沈の生土神と

伊丹坂の乾ふあり　武庫郡　鷲林寺と一双の寺院あり

鷲林寺旧趾

今古礎かくあり


伊丹辻邑
碑
荒木自然齋の
塚
キヤクシ天王
祝る堂
八ん宮


自然塚

伊丹
野宮千頭天皇

天も火ふ
酸り
伊丹の
大灯篭
鬼貫

酒ハ聖賢の譽めうつく
長緑の百川と
仰ぐべし〳〵
池田 伊丹の
酒造の絵
海意
ゆうぐし

丹羽桃李

辻碑 大鹿の東辻村にあり此所攝津國中央の正當にて故に辻村と名づけ高二尺横五尺ありて形ちの代建法奥の壺碑に效て石碑なり 側に八幡宮牛頭天王祠
初久年歴不詳 某師堂あり此所の生土神なり

碑銘曰 距東寺十里距開戸七里距須磨七里
距天王七里距大小路七里

文字東寺以下多く磨滅して見へず東寺は京師の東寺なり開戸は摂城の懐山猪関戸院なり須磨は八田部須磨里なり天王は有馬郡摂丹の堺母子村の小天王嶺なり大小路は摂津大小路なり或人親古今の右大將頼朝公陸奥壺碑の意なりと

おおやけ古伝伊丹くそ昆陽やき猶名まへぬ辻の碑

伊丹 町名廿八属邑十二河辺郡 都會の地にして居人多し京師大坂有馬三田等の驛

名産伊丹酒 酒造の家六十餘戸あり禁裏調貢の御酒を老松と称して山本氏あり造る伊丹氏あり造る其外家々の銘酒を菊名酒と称し樽の外巻ふ中して神酒の酒なり八尾氏あり造る其外家々の銘酒を菊名酒と称し樽の外巻ふ中して神酒の酒なり 運送に特あり 近衛殿へ遣し此酒の頒を賞ず
送る波海の船に積て多く関東へ遣し此酒の頒を賞ず
むかしより村中の者更々郷中の支配を蒙ず

鬼婆
紙の女や袋あり ひのあれ汁

野宮牛頭天王 伊丹天王町にあり古豊橋崎宮と称し後世猶名聖の中なれど俗称して聖宮と云居の額牛頭天王い

近衛家熙公の遺藻十四村の生土神なり 享保八月廿二日

別當金剛院 天王社南一町にあり有應山野宮寺と号し真言宗本尊某師作なり此寺は弘法大師の旧脇士日光月光十二神將を安置し当社の勧請なり延喜に年號を改め酬聖寶尊師なり初は若樂寺と号し後久安六年鎮座八幡社に十二支の時なり 荒木村重の逆乱の時社頭伽藍当社と重興し金剛院と改む天正年中荒木村重の逆乱の時社頭伽藍共に荒廢す遠く慶長六年豊臣秀頼公の命にて長照法師再興し今の社は貞享二年迄諸堂悉く建営す

天王松 金剛院の西にあり鎮座八幡社に松法にて

牛頭天王の神詫を蒙りし所なり

金閣清水 伊丹清水町にあり巨勢金岡聖宝尊師の命にて造営す四時涸減なし此地の北方を金閣と

繪圖に模し 内裏へ献ず 画工に用ひし清水なり

荒木攝津守村重古城 伊丹の東にあり村重は永禄年中池田伊丹の諸軍と

攻る畿田勢なり拒く終に信長の為に滅さる 俱に京師に入て將軍義昭公を輔護し伊丹城を

村重は天正七年十二月十二日落城

墨染寺 伊丹市町にあり禪宗曹洞京師 墨染は荒廢なり伊丹の住人加藤牛氏と云者なり 京師 里道元禪師の舊跡

再興せり其後荒木村重の菩提所と成

加藤牛氏は後世上畠氏と改む

本尊釋迦佛 定朝の作長二尺伏見墨染寺に遷

定朝の作

墨染藥師 定朝の作長二尺伏見墨染寺に遷

荒木村重塔 崇寺仏殿の 女帝塚 村重居城の附城中女帝土蔵ふ蠻是しと寥ふ織田の軍勢焼討手せしより村氏古れ城憚んて

さてに塔と築くなり

鬼貫墓 崇寺ふあり加藤年氏の支族ふ故ふ上俗と号に元文三年八月二日没に仙林剛翁居士と墓面ふ鐫ぎ此苗孫今ふ存立に鬼貫ハ正風俳諧一方の豪傑ふ俳書獨言を著に鬼貫句選ハ古紙選に。ふるかぜ集ハ半化房撰む生涯名句多〜

ふるかわりと秋の来るふ〜の山　鬼貫

月明くて蚤もかをむや　昆陽の池　仝

蚤の如き古郷く　仝

咲こうふ見るこの邦　仝

為朝八幡 伊丹の南ふあり鎮西八郎 勅祭をとあり 鴨家 伊丹町民家の表ふあり 奥谷池 今伊丹町ふ属に

猪名篠原 伊丹の南街道の東ふ方三間許の盆原あり回沼の中ふ遺せしめ中ん猪名野笹原猪名野笹原号之

後拾 あら田山井かのさ原風吹いてそよ人を忘れやとを所　大弐三位

続拾 志からるかかのさやの刈り枕みしらぬ秋ぞ思ふ　右大将言貫季

新拾 みわたせまし〜落ち来ぬるかのさ原　土佐内院

新後拾 あら田山井かのさ原風吹くあれ遠ざるおもかのさ原　法中定為

猪名野 原。山。共ふ古新名〜都く山名の惣号ふ〜

類聚名所云 摂津国豊島郡ふ在

三代実録云 詔賜左大臣従一位源朝臣信。摂津国河邊郡為奈野於二十五年八月勅賜摂津国河邊郡為奈野於二品行中務卿兼上野大守光孝天皇親王以為遊猟之地。勿禁百姓樵蕨又同書日仁和元年正月三日勅以摂津国為奈野為太政大臣狩鳥野樵蕨放牧依舊勿制

拾遺 あら田山井かのさ原風吹いてそよ人を忘れやとを所　読人しらず

後拾 いなそよ原ふ吹くあれ来ぬ人を思ふ　為家卿有房

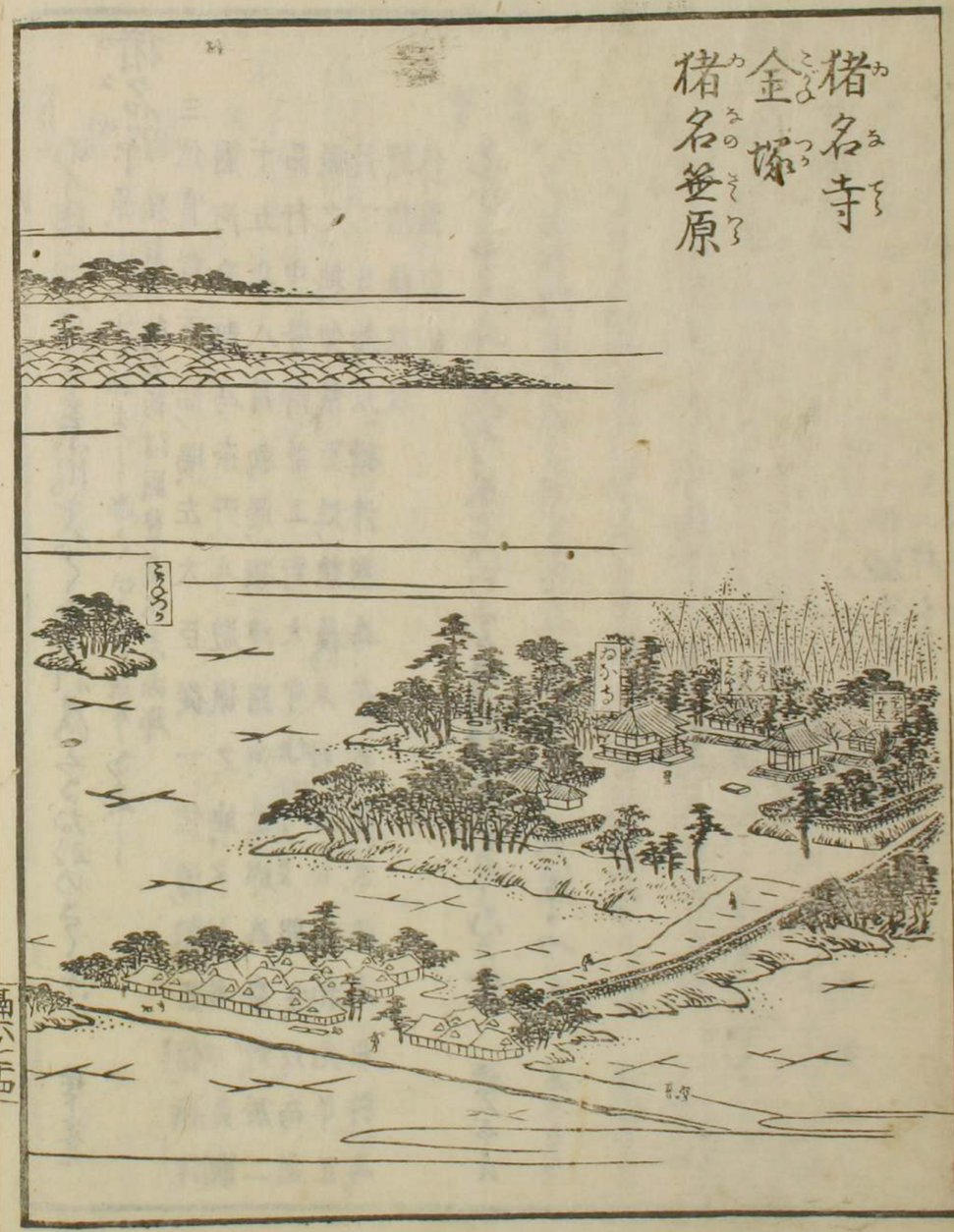
新古 あからさまの月かの野ふ出でしかな　読人しらず

続古 ひるもかくなれて原のうら枕さそも袖ふ月ぞ宿るこの夕

猪名寺 猪名ふ村ふあり法園寺と号に古ハ伽藍観音寺と今古礎あり三重ふ方ふ向ひの石あり土人云大塔の礎と

本尊薬師仏 此基の他庭像長弐尺初ハ法道仙人大化年中に開創し其後此基ふ移に止住〜〜諸堂荘厳〜〜天正の荒木ふ兵火ふ罹く焼燼とあり今小堂一字ふ天王祠あり古れ城生土神〜〜

猪名寺
金塚
猪名笹原

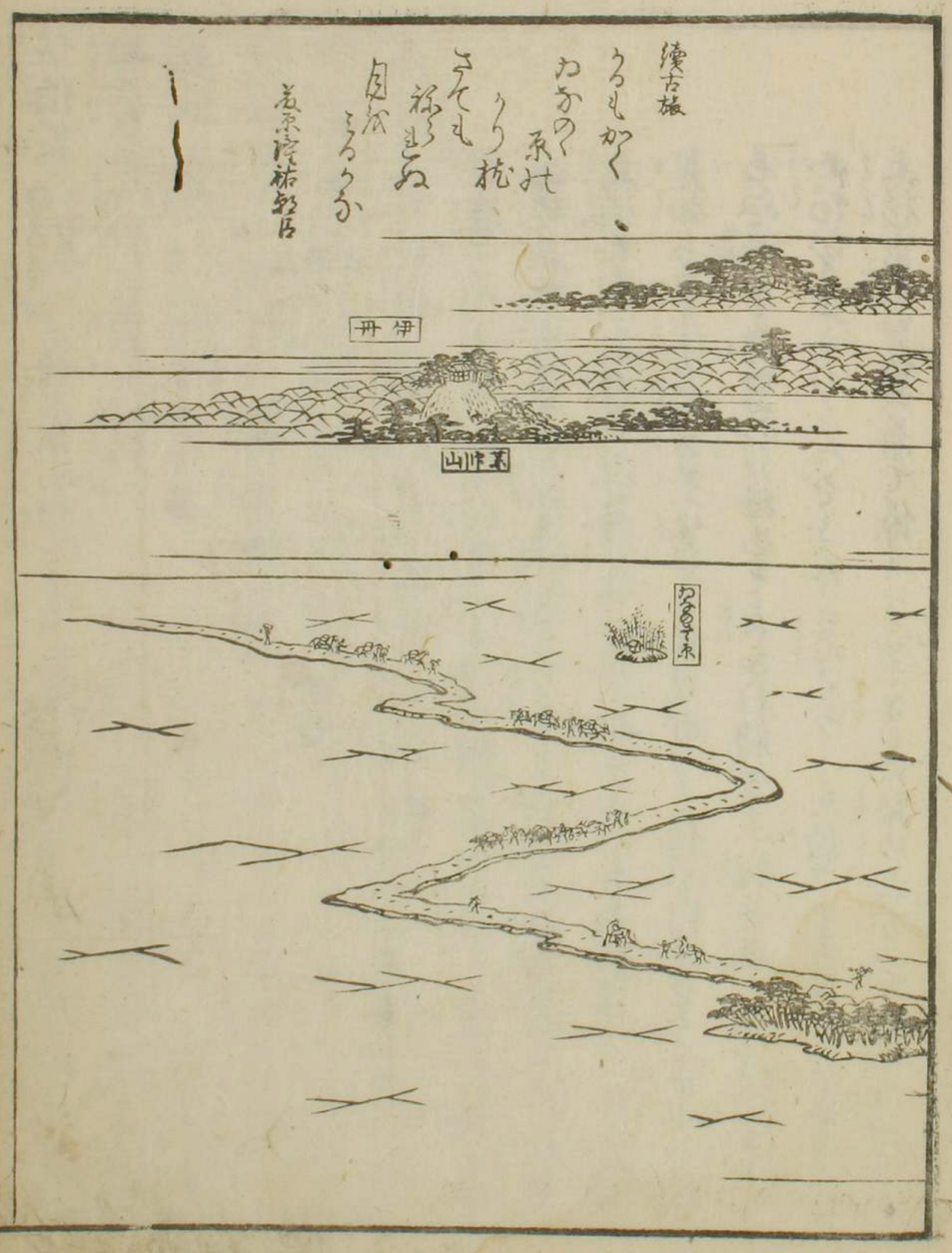


續古抄

うるもかく
わかの浦に
うつ枕
さてもなれぬる
夕波の
うらうら

為家卿拾遺抄

伊丹



佐伯冢 稙名寺村ニあり　鶯冢 同村ニあり　食満冢 同村ニあり

寶冢 川西村ニあり　首冢 同村ニあり

萬古王墓 富松村ニあり由緒詳ならず

琵琶塚 塚口村ニあり由緒不詳　落馬塚 同村ニあり仲道

御願冢 神頭塚村ニあり弘法の願を立てひしく古塚といふ

高師直塚 山田村ニあり高師直軍卒ニ討たれし後人憐んでさくに葬る

太平記曰

観應二年二月廿六日ニ将軍已ニ摂合體ならく上洛しゆへ執事高師直師泰兄弟も同道世者ニ紛れ無常の岐ニ策とう門前帝

甚雨ならふ源さく救萬の故此彼ニ扣る中を打通れいきれとて人ゐ見知らぬ〻〻蓮の葉笠を打傾け被さく顔を引隠せども中〻紛

れぬ天下の身のせゞた極まて衰へれ将軍ニ離れ奉ては道さくも

如何なる事ならんとそゝんと危くおもしも驚ゞ馬ゑ歩めてあるゝと

上杉畠山の兵共兼て儀〻なる事なれば路の両方ニ百騎二百騎五十

騎二十騎慶々ニ扣へて待なる者共をとる執事師直よと見くられて

将軍〻執事とのめらひと次第ニ隔んと鷹角一揆七十餘騎會尺色

代も形く馬ゑ中へ打こみ〻〻ならる極ニ心あゝゞ押隔られて武庫川の

色と色なる波ニ将軍と執事とのめらひのを隔ニを阻く五十町許ニ

成ニなり哀なる哉盛衰刹那の間ニ驚とる事倶羅帝釋の軍ニ負て

藕の穴ニ身を源〻天人の五衰の日ニ逢て歓喜苑をさはらく消も

かくやと哀れなりし人天下の執事なく有ける程ニ此の如なる大名を招

も其勢を敵とえて千鍾の禄萬戸の侯を得るゞ必く悦びおしも心ゐ

あぬ氣色とえて薪を負て焼原を過雷ゑ戴く大江を渡るゞ必く

恐とた何況や将軍と打雙く馬ゑ進め給んとる其中へ誰の隔く

先立人も有へさふ名も知ぬ田舎武士云計なる人の男黨共ニ押隔られ

馬さゞるの水ゑ跳懸られて衣深泥ゐまみとめれい身を知る雨の止時

かく泪や袖ゑ絞めとそゝん執事兄弟武庫川を打渡て小堤の上を通る時

三浦八郎左衛門弟同二人走寄さく此ある遁世者の顔を藏をへ伊の者で
其笠めげとく親車の著られる蓮葉笠を引切く捨るふ頬冠をづま
て門顔のおゝ見へる紙三浦八郎左衛門哀歌や頼朝の幸哉と悦く
長刀の極紙取延く筒中を切て落さんと右の肩先より左のふ脇まぐ
鋒さめりふ切付られてあ川と云事を重て二打うれく馬よりどうと落
ゝれで三浦馬より飛く下て貴紙掻落して長刀の鋒ふ貫く若上
う武蔵入道師泰も右ふ小四郎ふ討とく貴紙ゝれる

火焔皇子神廟 東葉津村ふあり或曰宣化帝第二皇子火焔王み墓く
山皇子八川原公爲奈真人等の廟く

浮光坊幻菓 若屋村ふあり東本願寺の末寺紅梅を引きくる豊色あり樹中ふ細き流れありく
樹紙架に京師朱雀寺の遺天橋紙あてに奪むとして

西明寺 下倉潟村ふあり浮光坊法然上人濱州より帰洛のやうに立てに
あてに遺ゝゆゑ今一夜逗留ゝゆゑ若導大師及び我肖像紙殿加ゝ
寺の市尊とし

白牛天王祠 穴太村ふあり京都白山權現世俗齒神と称ゝく齒の疾を
祈願をれを忽平愈に

武田勝親墓 冨田村若念寺ふあり武田勝頼ハ甲州武田信玄の嫡孫子
密絶院ふ勝頼の縁者ゝるふ家ふ武田家没落の時山州醍醐
龍ゝく書前ゝ武田左衛門尉ふ幼児を抱さおふ
家ふ栗山と共ふ籠城ゝ主君の仇を報ゝんと欲ふ驛遽の後勝親僧と成
法号を若心と名乗ふ寺を創次其後天和二年六月十九日寂後年
百三歳今浄土真宗ゝく京師
奥正寺門徒ふ属ふ

伊佐具神社 上坂部村ふあり延喜式出今稲荷明神と称ふ
森村と共ふ生土神ゝ次

正玄寺 塚ふ村ふあり京師奥正寺の懸所ゝ門徒所方或ハ御堂と称次
應永十六年八月奥正寺ふ住曇上人摂州紀田の内当村乃門徒
祐信と云ふ禪門住曇上人の教化を蒙り信心堅く終ふ此地ふ寺附して
興正寺抱所とし摂州末寺数十餘箇所の編頭ゝ織田家ゝ制状其外
天正慶長已後將家古證文數通あり

禁制 搆別塚口

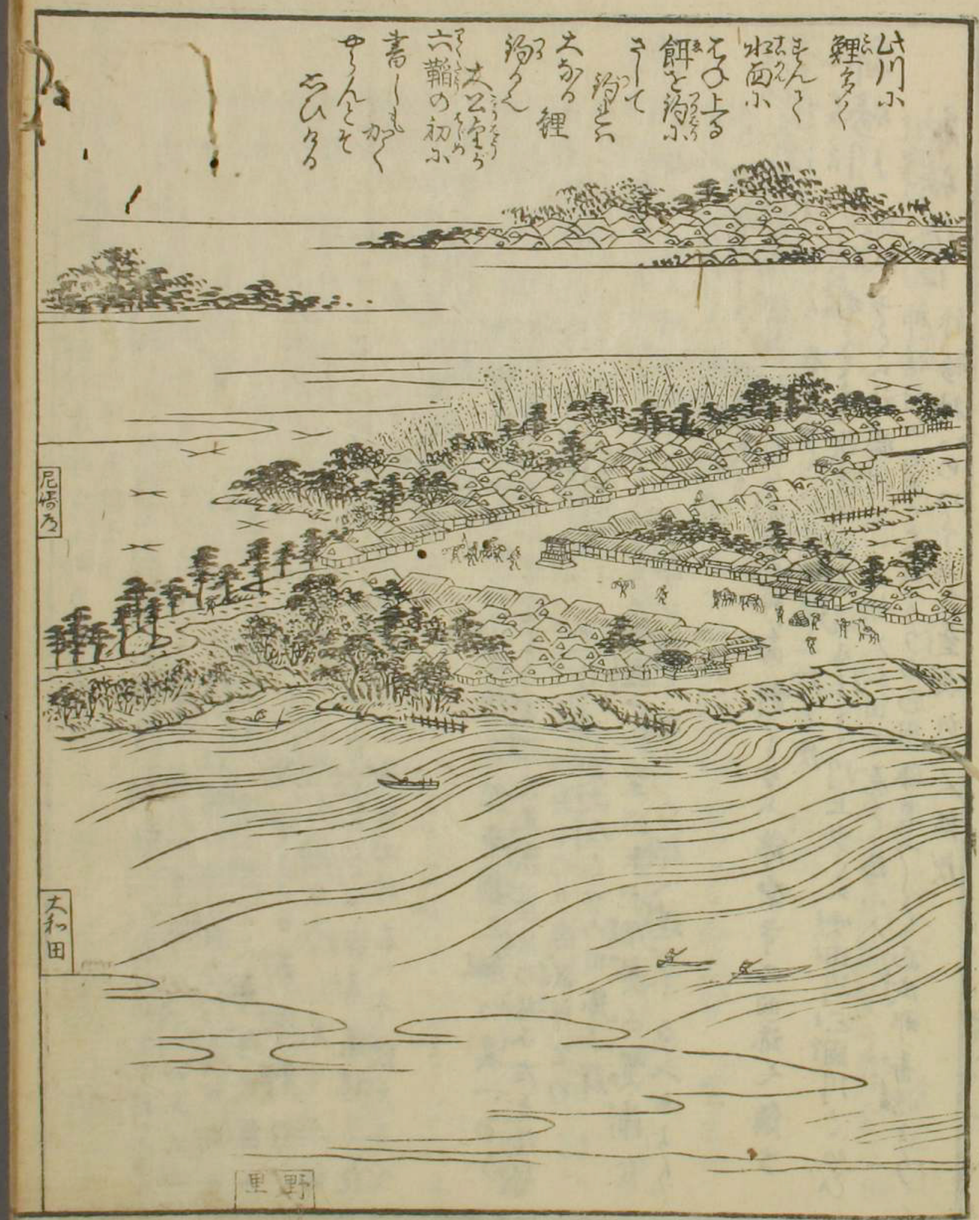
一軍勢甲乙人ふ乱妨狼藉之事
一伐採竹木事 自陣取之事
一相撲矢銭兵粮之事
右條ゝ堅令停止訖若於違背族ゝ
忽可處厳科者ゝ仍下知如件
天正六年六月日 信長判

名木藤 寺内産ふあり奥正寺十四世霊秀上人昔松書院の庭ふあり高サ九丈
ちふ藤ゝく自樹ゝ東寺羅城門ゝく細ゝ甲と狐ゝ魔ゝ 樹の一面六丈餘

茨木童子出生地 茨木村ふあり東寺羅城門ゝく細ゝ甲と狐ゝ魔ゝ
土人の謂ゝ

近年妙見考成
信ぜる者多く
特ふ久々知の妙見
祈願の妙見とて
諸人多く霊験
日々ふ彩えまれと
時刻神とて

神崎の渡口へ
往還わたる
ゆきてのくれ
はてはこれ
稲荷
香炉


川ふ
鯉多く
もんく
水面ふ
たゝ上る
餌を沟ふ
さして
沟とい
大なる鯉
沟くし
大こをもら
六鞘の初ふ
書しもかく
やうんとそ
たひる
尼崎乃
大和田
野里

久々知妙見堂　久々知村廣濱寺にあり　日蓮宗
正德年中再興す

本尊妙見菩薩　長七寸天德元年丙子田滿仲公の勸請し當村の生土神なり

例祭九月十日寺號云むら當村に寺井氏といへるもの

開帳すること忽崩壞すること其後此社頭の神籬の竹末に櫻に

代取るものあり　樹上より通ずる又壁の穴の樣なる

六十日と思へども犯後此崇あり　廣濱寺を基禪郷の

其後日蓮宗の沙門日間此妙見菩薩の示現公學ありて正德

四年二月十五日此寺を授る日年九月宮に祈へ法筭道場

此時初て開帳せるに中央に妙見菩薩右に午頭天王

妙見菩薩の神像を表冠束帶の

祭神實に國常立尊なり

日蓮上人像　廣濱なる本堂に安置す大覺僧正の作本朝三躰の其一なり

足利尊氏公の巳男貞宗の官領左馬頭基氏の猶子左馬頭督

氏滿の教の記文あり中に倚あり國に

あるいは日間上人あり安置祕畫驗あり

矢文石　社にあり源滿仲公の矢文石といへり由緣不詳

潮江　攝津國潮江村の南にあり むかしは海なりしが今は田となる

潮江と云へり　埋古の此所　海濱　錦樂寺村にあり原吉備公の創し錦樂寺の四添人領

吉備津祠　錦樂寺村にあり　古竈あり

神祭川　又神祭とも書淀川の支流川上より川口に流れ田川と云ひ

神祭波口　神祭村にあり大坂より西國海道なり　成那　香櫨より

神祭村へのぼる　人絶ず

神祭の松原　今の神祭と云へり風土記曰むら　神功皇后筑紫より歸の日

諸神此に會し軍議し給へり　村民

遊女宮城墓　神祭の小字町詳田圃の中にあり　村民

傾城塚　又女郎塚とも

津國のかみはのとら法師ぬれぬれひたいむきとそとう　遊女宮城

神祭にいはく　水門にて西海に船出せんとて

遊女の家もあり　建永二年の春如月法然上人讃岐國へ

左遷のとき此城の名ありし　船にめされ此湊に船

の別當惣鎮和尚に御暇乞あり　柱女宮城といふものに船に

揮さしく上人の御船に纜を繫ぎ上人に向ふくうに姉ぎたる

この外の流の身罪業深きを懺悔し未來たをのうん事疑ひ

上人いとゞ哀れにおぼしめし　光智園純五條二位の女人なれども一しほ

弥陀の本願に帰入し名號を唱へ　佛の光明の中に摂取

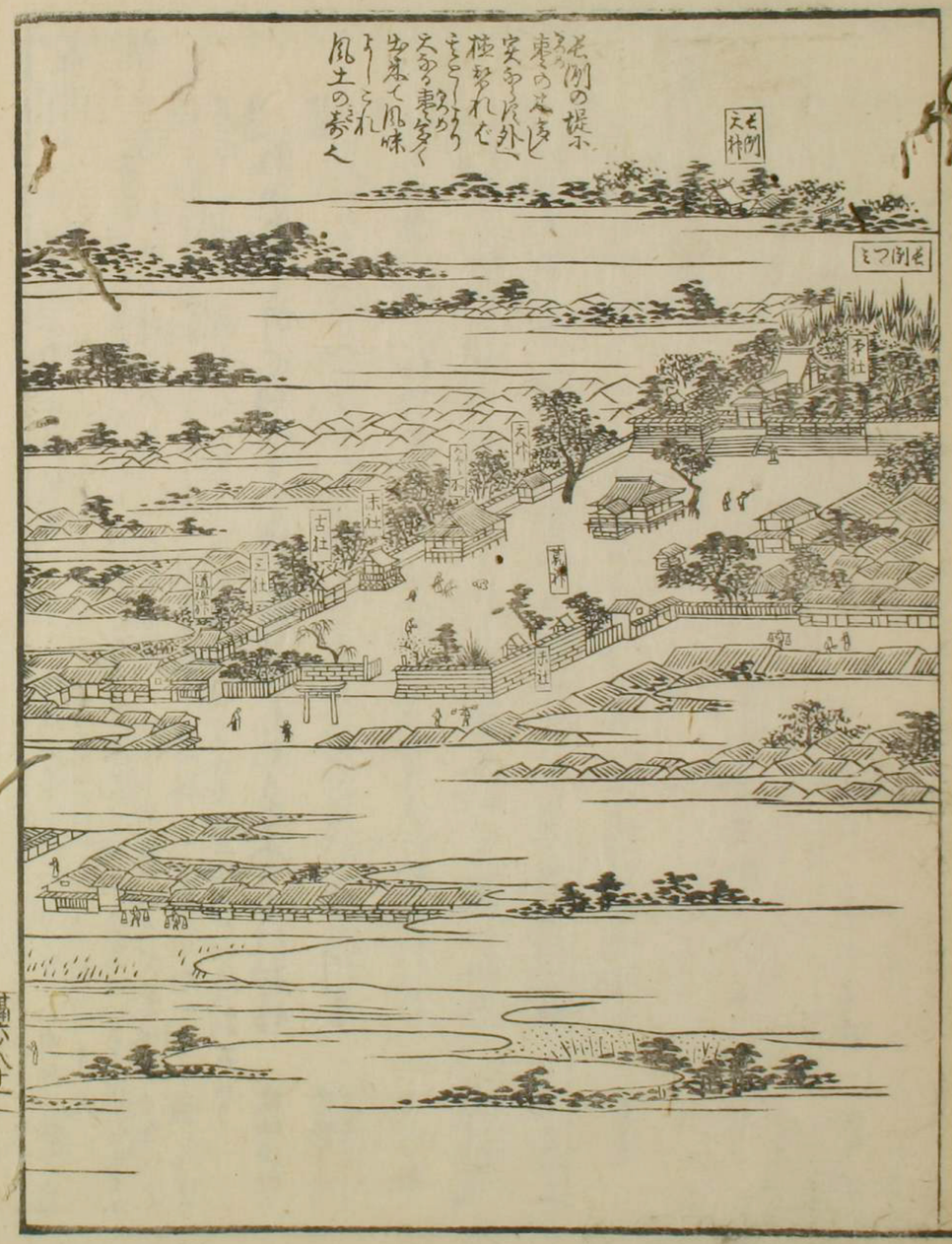
しく極重の罪障も忽消滅し　西方淨土に至るべき事の疑ひ

めぐみしと勸る法の聲高く同者は念佛〜〜と共ふみ人の
花君流い神の海とあり諸共ふ合掌〜導たゆ上人と云も敢ず五人
一度ふの波浮たる水屋へ飛入空〜くゆる人々驚た樽桶を吹く搜せ
ども其甲斐もなく淵髓を求めるく山川岸ふ一ッ所ふ蒸て上人諸共
引導の念佛しゆへ於是遊女塚と呼ぶもの形〜
後世尼僧如来院より ちに墓碑を建く表ふ六字の名號裏ふ往女
人の名と鐫るむ〜神場川ふ潮上ふ〜ゆり遊女山川へ身を
沉めうる屍とれ中より潮上〜〜ゆり樽の名とゆりぬ又山因縁ゆふ
人間の人由来樽と呼へ
尼場の東北をいへ長洲浜と称ス

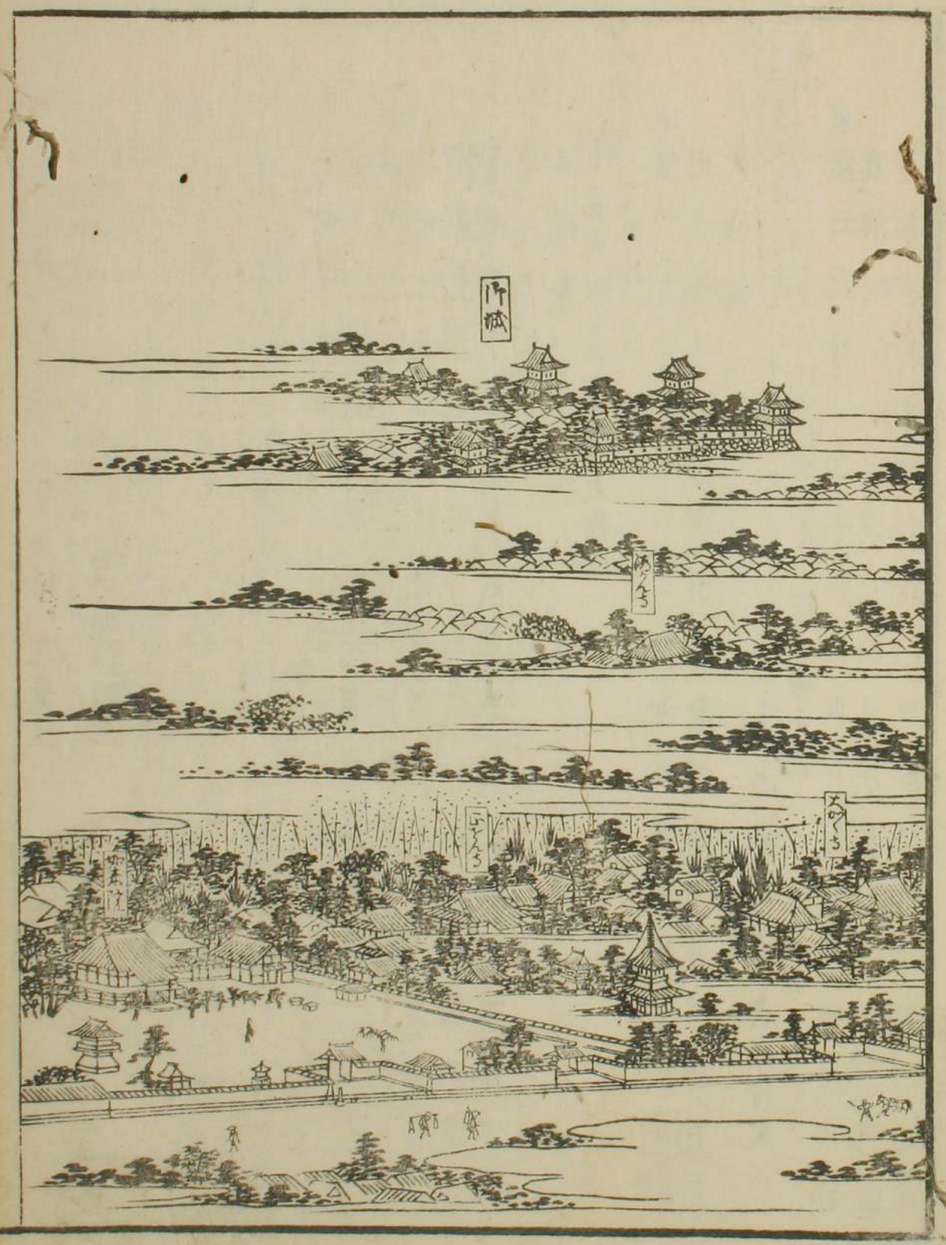
長洲

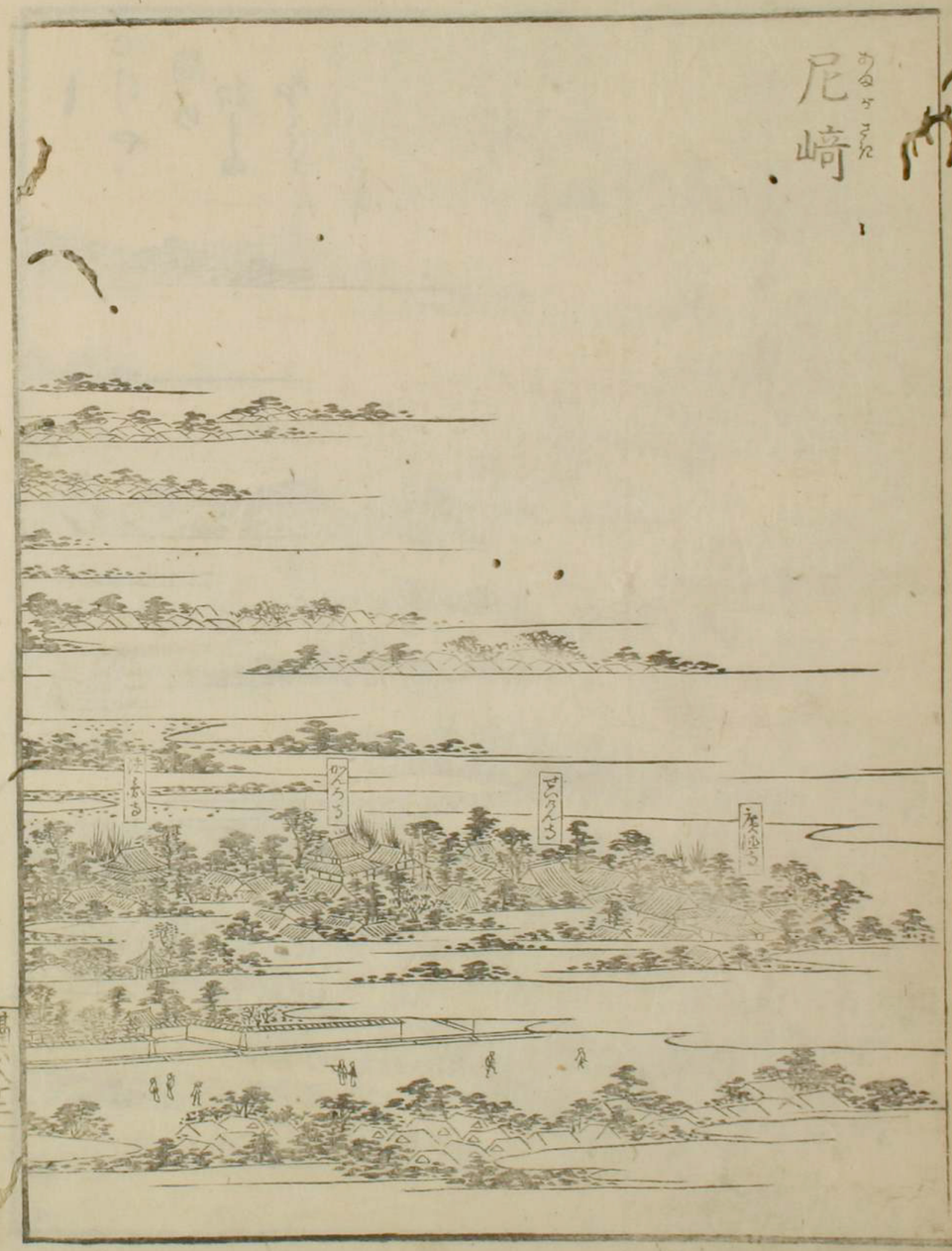
日本紀云 履中天皇貞ニ惡解除善解除而出ニ於長
渚崎一令ニ祓禊ヲ
つゆ神の海とゆるを法國のかゝを流れ津りへけを 名家
拾遺 恵僧ぬ物かゝ元来ふかくゆ長洲の渓辺形〜〜 後人考
文本 磯ふ寄るゆやかくゆゆ元の沙ふかゝを流れかゝを 兼輔
日 家代とゆ日ふ沙津るゆ形〜〜長洲の渓ふ形をつゆ〜〜〜 相模

長洲天神 長洲ふゆゆ菅神流筑紫へ左遷ゆれ自画の像を宥
長ふ賜へ此れ流来て生土神と成毎年二月廿五日遠近群集
浦初岩 尼崎の南渓をつゆ今ハ民家つゆゆて居已と成ゆつて場へ去ふ
潮と汲を忽真水とゆる今も此磯辺ふ出く念佛をとゆへ水面ふ表を圖しく
其中を汲を真水へとつゆ又居已八幡宮又尼場の領ゆれ初場の別荘ゆ
後撰 あか恵しりてやみまし津國の今もありてゆゆれ初場 成仙法師
拾遺 又ゆまゆふ波ちゆるふ成ふゆ此れ遠た浦のを川岩 常盤井入道
日 ゆる多ゆ浦の初場おゆしくふ此りてゆ月〜 枝の表れ月 平信時
新後撰 入日を尼去ゆ波の波れを入 称名院入道
新千 りてゆ岩ゆ又ゆ入ゆれ岩ゆる奥津波の浦のを川 内大臣
文本 小夜ふ中ゆうゆのを〜〜ゆ月ゆ宵ゆの月れ岩ふ昭ゆ 津守國基
大物浦宮 大物所ふゆゆ山所の生土神 範定
柔神 中央祀梓湖明神 左右龍津水命 龍津水命の二座ふ紀伊
例祭九月晦日 社傳云正治年中平清盛 叡州叢祠 系治の時此浦ふ於く
遥風 船と覆さんとゆ其時叢祠明神ふ祈をゆへ忽ち風波
辞ゆゆ故ふ此くに勸請し柔を名く 摂社ふ天照を神 基日
住吉 天満宮 道祖神
摂社 荒神を柔ふ


名所の堤
春の花ざかり
実の月ざかり
極楽れを
ながめつくして
大勢の春客多く
出来て風味
すぐれし
風土の者人
名所天神
名所つゝ
天神
末社
古社
末社
末社
末社

四月や
浦の
初しぬ
ほとゝぎす
古聲
尼崎
大物社
深のよし一ゝと奇う佛おと
ひれ名おとおしみゆゝ
山所ゆう
大物橋


伊賀


尼崎

姫嶋 下物の一名なるべし 夫木集 按は一説豊後

万葉 和銅四年河辺宮人姫嶋ノ松原ニ見嬢子屍悲歎作

妹の名はちよに流ん姫しまの小まつがうれに苔むすまでに

後拾遺 見わたせば波しづかなる姫しまや小松がうれにかゝる白浪 中務卿親王

夫木 ひめしまの小松がうれにゐる田鶴はちとせふれども年老ずけり 鎌倉右大臣

日本紀云 安閑天皇二年秋九月別勅大連曰宜放牛於難波大隅嶋與媛嶋松原冀垂名於後

攝津風土記云 比賣嶋松原者昔輕嶋豊阿伎羅宮御宇天皇之世新羅國有女神遁去其夫來住筑紫國伊岐比賣嶋乃曰此嶋者猶不遠若居此嶋男神尋來乃遷來停此嶋故取本所住之地名以為嶋號

大物浦 尼崎城下に大物町大物濱 大物橋あり

東鑑云 文治元年十二月十五日豫州(判官義經)妾(静御前)出來相尋之豫州出都赴西海之曉被相伴至大物ノ濱

判官殿旅宿蹟 大物橋爪にあり今に公役免除の地也 武藏坊辨慶借證文など此地の仁木氏今に所蔵し傳來す

東鑑云 元暦二年十一月六日行家義經於大物濱乘船之剋疾風俄起而逆浪覆船之間慮外止渡海之儀伴類分散相從豫州之輩纔四人所

謂伊豆右衛門尉堀弥太郎武藏坊辨慶并妾女静一人也今夜一宿于天王寺邊自此所逐電今日可尋進件兩人之旨被下院宣於諸國云云

尼崎城 旧名大覺寺城といふ 元和年中細川尹賢居城し元亀年中荒木攝津守村重修補し滅亡の後池田信輝に属し元和三年戸田氏鉄改築しこゝに移したまふ 城下は大坂より三里あまり 川辺郡の産物市店に出して交易の商人多し 南は船浩泉州紀州に続く小船の泊りにして西は播磨に通ずる山陽道の喉口なるべし

尼崎屋松 大物浦旧所にして縁にあり又南濱に逆櫓松の古跡あり平家物語に福島と見えたれは今大坂福島の逆櫓松是なるらん未考ふ見人より

本興寺 尼崎寺町にあり日蓮宗勝劣派塔頭八院 本山と号す京師本能寺に同じ

開基日隆上人 姓は源氏父は桃井の苗裔 清和帝の後胤也十八歳にして出家し初めは慶林坊日立と號し後に諱を改て日隆と書く 本門八品の奥旨を興隆し両本山を創し末派の流儀繁栄しく尽未来際に至るべく

廣德寺 同町にあり禅宗臨済雲山と号す 京師大德寺に属す

開基言外和尚 大德寺第三代也 本願は花岳宗栄禅定尼 天正十年羽柴秀吉公中国より上洛し此寺に於て合戦手勝利を得玉ひ当寺及び栖賢寺と倶に諸将を饗め祝賀の饗應ありし所也

法園寺 同町にあり廻向山と号す浄土宗京師知恩院に属す 鷲誉上人中興也 勅額あり又陸奥守佐々成政の墓碑あり天正十六年五月造立

菖蒲苅鳶
丹羽桃隆

宿

芦刈

以前後と芦刈りしなりしかしかの者あり家貧しく貧しく遥々まゐり女もあり男も共に出仕の蘆を刈る日毎に市に出て世渡りとなりて又まゐり再び會半に待ちて其芦を刈りて刈者と書く

大和物語云

津の国難波のうらに家しく住人あり名をあしたてと女もあり名を

あしたてもなきけにまいわくさりなれとまたてをひかもいとつらく恨りく

家もこほちはてつ人かともとく宵とろふいさはく者て住つるほとに不

さたらあたもわつひとも人やとりれはをまてをひしりろりなほふ

おりひとをくゆうりをるゆうれはとひうそはるわし男りくたら恨くて

のをいはたらをる伝見捨ていつちもくをいくまくをもあたとこもすては

いつちらゆうんとれをいひてうをるれあたとおのまいとそもうくても強あん女の

とうたはやふくてあるあんいとくをたをふのほうてをわはるをもせよとろ

くきあうまもあるとれ伝もとゆうこあのれもくのともあるあるたろひ

やふうんかとあくくいを恨うそたうれ人をうつきて女ら家ふきふりはたをく

いつこそもあくてきこれをこれはきてうくのりとふあくいとあれとあひ

ありてをくあふ萩落ていたはるあれ有あん宵々春風かと伝をあふ不かあ

津の國をとひやうくいうそあうくむかとうあくくてようをる

をとうくていふ勢はくやつをつれをそをもをの萩をこうる

とあんをとうこ地るうそとうう女さたくふくあるくのやんをあたあふ宮

うそうをうをつうひくあるをほとふはうをくきようけふくむつうはをあとも

あくてあうるれをてきようけふのをくあうあふうりかれと津の宮とうと

はもうたれたはいをあをたりひあうるをたうくあふをとつけああうう

をれとさうふくもきくたはんとはをうをくはをつ疫るうをむつはあう

をあるくもあうるれをたをもはあやたはいをたはつうあくいくあんとのを

たりひあうるをうをくたはとふはは宮はくたあふのふのうをうあのあひくをくれ

うれあるくをあくつうひなるうをうをたるかふはくををひあひるりありひうをて

ゆふ成ふるうおりくをまもあくてあるそをげあをくあるうふあくくをれたあをを

そこに人のあるいうみてくるむあうてやあるんようくてやあるん
ひろあるものも得ちるさで人と原ちくさろひさせんと浮きとうそひろたとと
きてうそあるはりとふもしそのあれと祈んしはくありとうる公かぬはや
あるまふ見やれを男ふいを々るやう津の国といふ所のいておりしけ形かふ
いうそ雑股ふちるしてそるまるるんといを々れいとよ紙まるれもとろ
ともみとひひ々れそこたなりめかしかをそおのれをとりまるるんといをく
いそうちていふろう雑股ふけるしてゆりあんと浮る付ふひひてうりにる々べき
ゆゆんあるとくいまたるしとゆれく変れといをつこの々る海を原るせはく
家のあるしまうとるふ家もかしんもれしいるるんいふ々んやるれるう
ゆひろうこの歌公ぞんみるくるりをんきてれとるむひ海るきすさもかしかく
まるろひさたるいまかるもみしいてあれをとるる海とそるからむるふもれ
人目それぬしてそ御車うかぐしてんやいたるるてといを殺ふ蕪蕎をるる
れとこのるこを公のゆ門形るたるとあ公車のまんよりいたり見ぐる原公月るふ

その人をいるくくもあるたいうるたとふ仰ろうこれてんて
ようく見まするしさふ芦りちるる花のこるをを歩よ芦々るんといを世々るさう
々れそるう形れもけうを形るふとんおりを々れと考うれのるきふゆゆれよひ
てろに車のりとちるくを公ふ形るさを歩よ見むかといひてけ男の歌をよく
るるふ形れおりうをりいて義まふのる歌りのあたをひてようふる人いる形るん
と沙ひるるおれそるも社人いゆ公れほるるのよ紙表ぐ海とる形んおりひる
かくてこのあしの男ふ形ゆゆ々るる形よ形てとおほくあしのあるを丑を形よ
とひひあれをたるろ形るりゆふかふ形多く形るんゆとある人るひ々れを
志ゆるくも変いを丑ゆているくあ公るるるせんとおりる間ふ考るるれのるさる
けあたるるり世男まりれを我ら女子仰るりゆやるふ公を変て月るる
歌も聲もそれおりるるゆをおりるるゆひあいせくるるる海のているる形く
おりるる公おりひるるふてはるるくてあるもうちにてくるるまけ
ふるりるるていを形々れと人の家子ふげ人るかはれるりへに

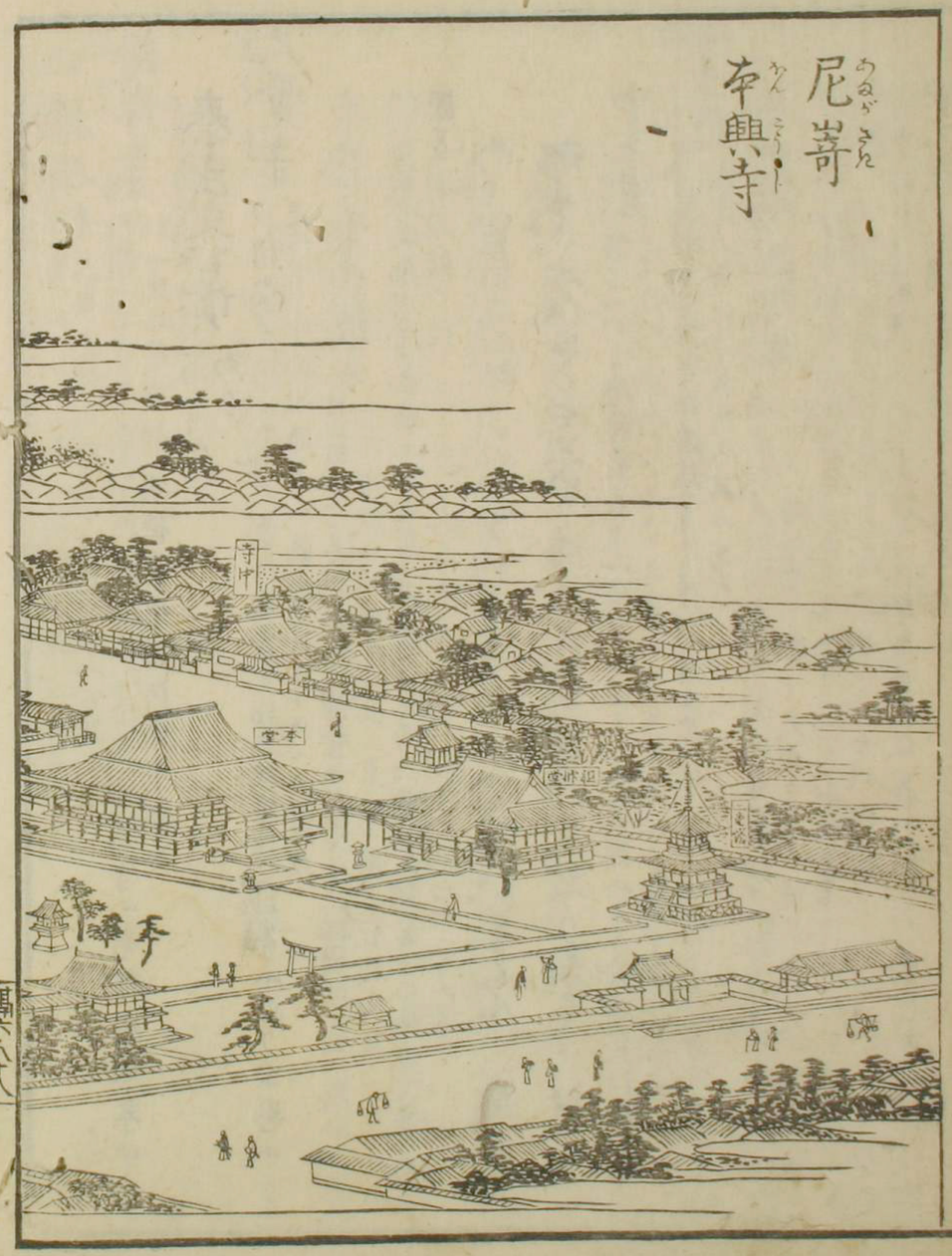
がまりにうつすこれ車をうつすこのたとこうつくくとしひろれそ
そもの人をかあぐちくのとあさをうりくそを野る家ゐあん侍り
ゐるとりくをはたとこふかくなりて世事ありくめにありあにのうちをう勢
ゐ人をたふあるに也をそへ給へせんとにれたさあたりのありとして附
ふ視をしひくゆこうくそれふ
若野くてあるうろうとたりゆもいとく雑波のうるそ位う爰
とかくく対してこれ伝仏車ふくくまつとしいをれいあやとりひて
りてきくなるあけくこうろ野ふ仏ばよくと巻野たけるさく
をてきいくをうりんをうにるまふきうりる夜ぬさくはくみ爰
ゆこかとかさぐしくあうるねるんのをるのちふいく野りて
をんをるに

あるこしとそこそ人のこうれるあ野ゐ雑波のうるに位うた

栖賢寺 日所ふあり神院十絲の其一え 秀衡公仏像合戦の附
徳利ありく諸廣を繕へ祈と

獅掛松 当ふあり 仏像合戦の軍令伝定めゐ古蹟
海岸寺 日所ふあり 竜山と號に附宗師金蓮寺ふ属に正慶年中
西一比丘尼開創明徳年中臨阿弥中興に
秦武文古墳 当寺ふ
大賢寺 日所ふあり 月峯山と号に真言宗初ハ統勢郡服巖ふあり末巻ふ
足くさう中興琳海上人嘉暦年中あふ遷次
本尊千手観音 日羅の仏長壱尺弐寸当寺の什宝ふ平相国清盛 高倉院ふ
皇子除誕の祈願文正和二年常盤井殿祈文延文五年に
銀釵延入文細川清氏書簡將軍義詮ふ和歌二首等ふ諸名士の施願文等あり
源義則旗館の所ふ
あ一青のまるれたのやの野りるる義ふかる旗れるるらん 義則
都ゐくをひ出くやたのそ情下丸江の浪乃立野りるそ 行忠
十王堂 当ふあり海賊有くゐ多の宝を盗元其業因ふより我ふ貴に海ふ入く
足ひかの賊殺心しくまくに一宇仏建く十王の十躯を安に
如来院 日所ふあり球光山遍照寺と号に浄土宗
園光大師廿五霊場の其一あり
本尊阿弥陀仏 法然上人の仏長壱尺弐寸当院初ハ郡内神崎の地に
法然上人神崎ふ泊船しゆ八くく釋迦堂と称しく天平年中伝正切基の開基く
ゆふより旧蹟とあり永禄年中饒舞上人保元宗
ふ改く建武廿年ふ移次什宝ふ神像の柱女れ彩髪あり又虹梁の彫物
龍の形ハ左甚五郎の作とくく奥嘆そるん又当院ふ名月姫の父母三ツ松
刑ア廣門國基夫婦の石塔あり

尼嵩
本興寺

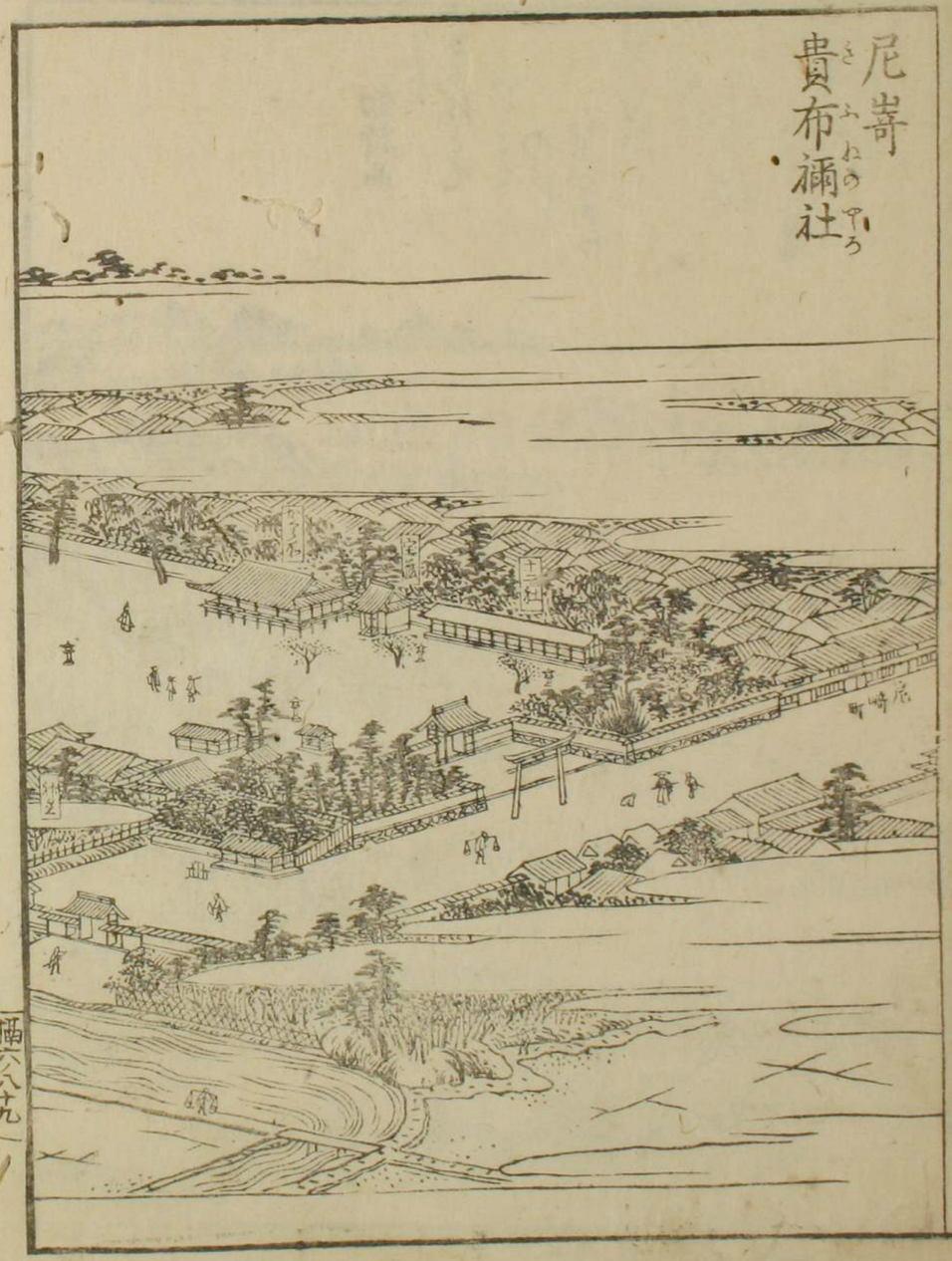


勸持品

彩古今
さうこんとそ
いくしも
あらし
いまやさん
法ふくつる
命と
おもうん

三三佐野家

尼嵜
貴布禰社



耳露寺 同所にあり茶王山積善院といふ津守宗泉師知恩院に属す開基ハ源永上人の什宝に法然上人紺釜あり

貴布禰神祠 尼崎西所にあり此地の生土神とす例祭六月三十日

祭神 罔象女神 御迎神 別雷神の三座を祀る旧地ハ此側にして元正帝の御宇勧請あり祭師を船に相同し末社十二座を祭る傳云亨禄年中正六位系右近衛府生秦

沖の火 大物の沖にて時々火海上に出る人傳ふ武文此沖にて戦死せし亡魂といふ波海の船頭おそれなづる者多し

祝津宮古蹟 難波村にあり世に仁徳天皇難波宮の旧址といふハ謬なり欽明帝此宮の古蹟ハ今八幡宮あり

日本紀曰

欽明天皇元年九月幸難波祝津宮

古梅 当村農家の玄関にあり此かたち難波梅と賞す

名月姫塔 尾浜村大日堂にあり此寺ハ名月姫の菩提所なり又七ツ松村に名月姫の父の松圃あり其古跡あり

蓬川 上ハ浜田七ツ松より流れ下ハ尼崎の西新田に至りて海に入

難波灘 尼崎大物浦より鳴尾 西宮 打出 五百寄 御田 御影 大石 脇浜 神戸 兵庫までを都て灘目といふ

夫木

春ハあまかる目くらし引綱のあつかゆるへぬ灘の浦人　行家

攝津名所圖會巻之六　終

此攝津名所圖會ハ都て全部十二巻なり魁して四巻を出し此六巻と都合して十冊なり全部と次

冉有曰既庶矣又何加焉

本邦畿内浪速國加焉以富加

焉以教誰謂減衛國乎今夫寰

宇巨理民風臣學欲繼之無窮

矣天門北斑紫垣地理盤應圭

婁東西南走汪洋曠海輻湊於

賈舶舩艦而富彊甲天下也蓍

古王仁從獻吾國風
鶴鷄事經之啓之來都于茲王
氣聖哲而基祉代逮如墨江神
廟荒陵梵刹雖波梅片葉蘆巨
膾炙人口其餘佳域名產不可
勝紀　亞相惜隱公由枉賜
冠玉於鄙稿光赫貢簡絲筥併
累敍繁密總罄矣　鄭生　又伸跋
耶是不辱強顏操斧於斑郢
之門而已矣

寛政戊午之歲中秋

丞安　籬嵩蘧里湘夕

皇都　秋里籬嶋先生著述
浪花　竹原春朝齋圖畫

都名所圖會	六冊	都名所圖會拾遺	五冊
大和名所圖會	七冊	河内名所圖會	四冊
和泉名所圖會	四冊	攝津名所圖會	十二冊
東海道名所圖會	六冊	京の名 圖二面	二冊
伊勢路名所圖會	四冊	繪引節用集	一冊

柳陰乃辛九

寛政八丙辰年九月　四冊出來
寛政十戊午年九月　八冊出來

書林　皇都　小川太左衛門
浪花　殿　烏　八
柳原喜兵衛
松村九兵衛
田村九兵衛